



取扱説明書

携帯型デジタル簡易無線機 IC-D60

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の携帯型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の概要について

- ◎IP67(耐塵形と防浸形)^{★1}の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック、アンテナ装着時に限る)
- ◎通話チャンネル番号や個別番号の代わりに、漢字、英数字、記号、外字を使用した名称で表示できます。
- ◎個別呼び出し機能や緊急呼び出し機能に対応していません。
- ◎チャンネル番号音声案内機能を使用すると、チャンネルを切り替えたとき、選択したチャンネル番号を音声で読み上げます。
- ◎呼び出しメロディー機能を使用すると、着信時のブザーやビーブ音の代わりとして、メロディーで通知できます。
- ◎デジタル通信によりクリアな音質で通話できます。
- ◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3B」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。^{★2}

★1 「IP表記について」(P.iv)をご覧ください。

★2 AMBE+2TM方式を採用している機種に対応しています。



使用後はリサイクルへ

この製品は、充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人 JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <http://www.jbrc.com/>

付属品について

- ◎アンテナ 1
- ◎ハンドストラップ 1
- ◎簡易取扱説明書 ◎ご注意と保守について
- ◎保証書
- ※充電器(P.9-4)は、別売品です。

チャンネルについて

- ◎CH1～CH14、CH16～CH30 :通話用チャンネル
- ◎CH15(呼出CH)^{★1} :呼出用チャンネル
- ◎CHS1～CHS5^{★2} :上空用チャンネル

★1 一時的な呼び出しをするとき使用します。(P.3-1)
多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。

★2 上空用チャンネルでは送信できません。
上空用チャンネルの設定は、販売店にご依頼ください。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2TM方式に対応しています。

The AMBE+2TM voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent Nos. #8,595,002, #8,359,197, #8,315,860, #8,200,497, #7,970,606 and #6,912,495 B2.

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しております。

はじめに

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

電波法上のご注意

- ◎無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)
- ◎登録局の有効期間は、登録日から数えて5年間です。
再登録の申請は、有効期間満了の3か月前から1か月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
- ◎本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
そのため、ご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。
技術基準適合証明(工事設計認証)で登録されていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられることとなりますので、ご注意ください。
ご使用いただけるアンテナについては、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎本製品は、日本国内における陸上、および日本周辺海域で運用する無線機です。
上空での運用はできませんのでご注意ください。
無線局登録状の範囲を超えた運用は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター回路内蔵のおもな電子機器】

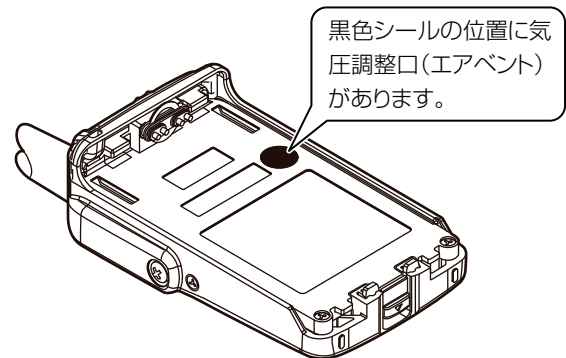
- ◎LED照明器具 ◎電磁調理器 ◎給湯器
- ◎自動車に搭載された電子機器 ◎太陽光発電装置

気圧調整口(エアイベント)について

- ◎黒色シールの上に、シールなどを貼り付けしないでください。

黒色シールの位置に気圧調整口(エアイベント)があり、この黒色シールの下にある空気を通す素材のシートによって、気圧を調整しています。

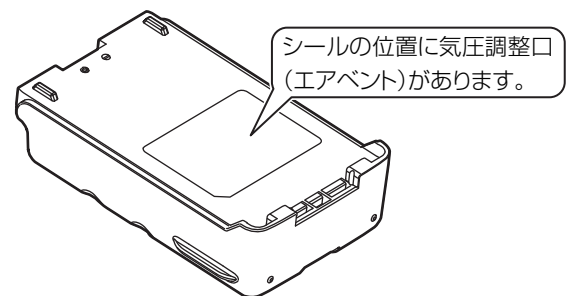
※黒色シールの上に、ほかのシールを貼るなどしてふさがると、気圧調整ができなくなり、運用してしばらくすると、内蔵スピーカーからの音量が小さくなる現象が発生することがあります。



- ◎バッテリーパックに貼られているシールの上に、ほかのシールなどを貼り付けしないでください。

シールの位置に気圧調整口(エアイベント)があり、気圧を調整しています。

※シールの上に、ほかのシールを貼ると、気圧調整ができなくなり、防水性能が維持できません。



はじめに

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を規定しない場合は、その等級の表記に該当する数字の部分に「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

IP6X(耐塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機の内部に粉塵の侵入がないこと

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

※ バッテリーパック、アンテナ、保護カバーを無線機に正しく取り付けられた状態で洗浄してください。

※ 常温の真水でやさしく洗い流してください。

※ ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意

次の場合は防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。

◎無線機本体、コネクタの保護カバーが破損している場合

◎落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

防塵/防水性能について

アンテナとバッテリーパックを本製品に正しく取り付けられた状態で、IP67の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を保証できませんので、ご注意ください。

◎水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき

◎雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックやアンテナ、防水形スピーカーマイクロホンを付けたり、はずしたりしたとき

◎海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき

◎落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき

◎長時間、高い水圧をかけたとき

◎蛇口からの水や湯を直接当てたとき

◎「別売品の使用による防塵/防水性能」(下記)に記載する別売品以外を使用したとき

◎無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき

◎-20℃～+60℃以外の環境で使用したとき

◎薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき

◎本製品を分解、または改造したとき

◎無線機本体とバッテリーパック、アンテナ、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の使用による防塵/防水性能

バッテリーパック(BP-220N/BP-274)、防水形スピーカーマイクロホン(HM-172)、アンテナ(FA-S05U/FA-S06U/FAS07U)を無線機本体に装着することで、IP67の防塵/防水性能があります。

※上記以外の別売品を使用したときは、別売品を含めた防塵/防水性能の低いものに制限されます。

※別売品(9章)のご使用は、防塵/防水性能をご確認の上、ご使用ください。

はじめに

取り扱い上のご注意

- ◎アンテナを持って本製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- ◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手のままでバッテリーパックや防水形スピーカーマイクロホン、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
- ◎蛇口からの水や湯を直接当てないでください。
- ◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子、および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがあります。
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

基本的な運用手順について

各手順の操作方法については、本書2章をご覧ください。

【通話チャンネルが決まっている場合】

- ①相手と同じ通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に合わせます。
- ②[PTT]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけ、[PTT]をはなします。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

- ①「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。
※空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)を事前に確認しておきます。
- ②[PTT]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。
- ③通話チャンネルを通話相手に伝えて、[PTT]をはなします。
- ④通話相手に伝えた通話チャンネルに切り替えます。

【通話チャンネルに設定できる便利な機能】

- ◎通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)には、ユーザーコード★(P.4-1)、および秘話キー★(P.5-1)を設定できます。
★同じ設定の相手とだけ通話できます。
- ◎プライベートチャンネル機能(P.7-2)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の切り替えに便利です。

もくじ

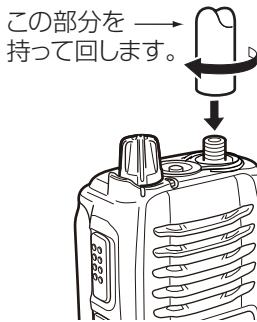
はじめに	ii	■ 送信出力の切り替え	7-2
本製品の概要について	ii	■ チャンネル番号音声案内機能	7-2
登録商標/著作権について	ii	■ 受信電波強度通知機能	7-2
付属品について	ii	■ LCDコントラストの調整	7-2
チャンネルについて	ii	■ プライベートチャンネル機能	7-2
音声圧縮(符号化)方式について	ii	■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	7-3
自動車運転時のご注意	iii	■ ショートメッセージ機能	7-4
電波法上のご注意	iii	■ 発着信履歴機能	7-4
取扱説明書の内容について	iii	8 各種機能の設定	8-1
電磁ノイズについて	iii	■ 設定一覧	8-1
気圧調整口(エアvent)について	iii	■ セットモードに移行するには	8-1
IP表記について	iv	■ 詳細セットモードに移行するには	8-1
海水が付着したときは?	iv	■ 設定のしかた	8-2
防塵/防水性能について	iv	■ 設定項目について	8-2
別売品の使用による防塵/防水性能	iv	9 別売品とその使いかた	9-1
取り扱い上のご注意	v	■ 別売品についてのご注意	9-1
基本的な運用手順について	v	■ ホームページに掲載	9-1
1 ご使用前の準備	1-1	■ 別売品一覧表	9-1
■ 付属品の取り付け	1-1	■ アルカリ電池ケース使用時の運用時間	9-3
■ ベルトクリップの取り付け(別売品)	1-1	■ 安全な充電のために	9-3
■ 別売品を接続するには	1-1	■ バッテリーパック使用時の使用時間と充電時間	9-3
■ バッテリーパックの取り付け(別売品)	1-1	■ 正しい充電のために	9-4
■ 電源の入れかたと音量調整について	1-2	■ バッテリーパックの特性と寿命について	9-4
2 各部の名称と機能	2-1	■ バッテリーパックの膨らみについて	9-4
■ 前面部	2-1	■ 充電のしかた(BC-161 #02の場合)	9-4
■ 表示部	2-2	■ 連結充電について	9-5
◇ 電池の残量表示について	2-3	■ BC-161 #02のヒューズ交換について	9-5
◇ 電池の残量警告音について	2-3	■ BC-161 #02の定格について	9-5
3 通話のしかた	3-1	■ 充電のしかた(BC-121NAの場合)	9-6
■ 通話するときのアドバイス	3-2	■ MB-97(ベルトクリップ)	9-6
4 ユーザーコード(UC)による通話	4-1	■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)	9-6
■ チャンネル共通のユーザーコードを		■ HM-109/HM-163A(接話タイピン型	
設定して通話するには	4-1	マイクロホン)	9-6
■ チャンネル毎にユーザーコードを		■ OPC-636/OPC-637(マイクスイッチ	
設定して通話するには	4-2	内蔵型接続ケーブル)	9-7
5 盗聴防止を設定するには	5-1	■ EH-12(ヘルメット取り付け型	
■ 秘話機能を設定するには	5-1	スピーカー)	9-7
■ 秘話機能を使用して通話するには	5-2	■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型	
6 個別呼び出し機能による通話	6-1	ヘッドセット)とEH-11(イヤーパード型	
■ 呼び出しかたの種類について	6-1	スピーカー)の組み立て	9-7
■ 個別呼び出し機能を設定するには	6-2	■ MB-86(回転式ベルトクリップ)	9-8
■ 個別呼び出し機能で通話するには	6-4	10 保守について	10-1
7 そのほかの機能について	7-1	■ 日常の保守と点検について	10-1
■ ロック機能	7-1	■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守について	10-1
■ モニター機能	7-1	■ 従来製品との相互使用について	10-1
■ 着信表示機能	7-1	■ アフターサービスについて	10-1
■ Pベル機能	7-1	■ 故障かな?と思ったら	10-2
■ ポケットビープ機能	7-1		
■ 呼び出しメロディー機能	7-2		

1

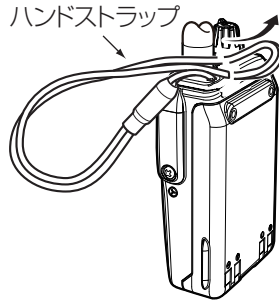
ご使用前の準備

■ 付属品の取り付け

[アンテナ]



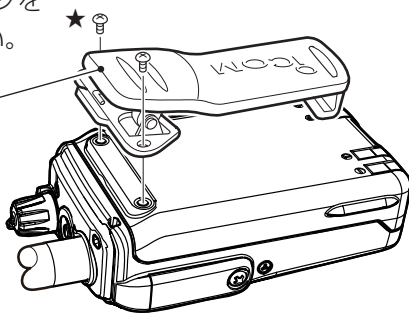
[ハンドストラップ]



■ ベルトクリップの取り付け(別売品)

★必ず付属のネジをご使用ください。

ベルトクリップ
(別売品:MB-98)



※ネジの長さは、ベルトクリップの種類(P.9-1)によって異なります。

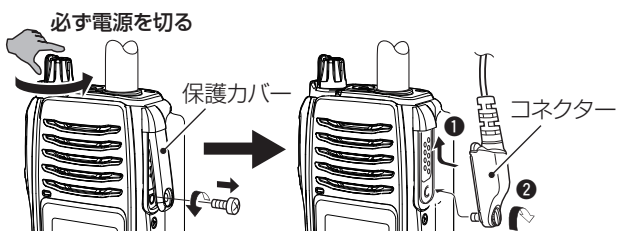
故障の原因になりますので、ベルトクリップに付属するネジ以外は絶対に使用しないでください。

■ 別売品を接続するには

別売品を接続するときは、無線機の電源を切ってから接続してください。

1. ドライバーを用意します。
2. 無線機の側面側にある保護カバー固定用のネジ(1本)をはずします。
3. 保護カバーをはずして、別売品のコネクター部分を図のように接続します。

※端子保護のため、必要がないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。



■ バッテリーパックの取り付け(別売品)

ご購入後、はじめて、ご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。

下記のバッテリーパックが使用できます。

◎ BP-220N :2660mAh min.

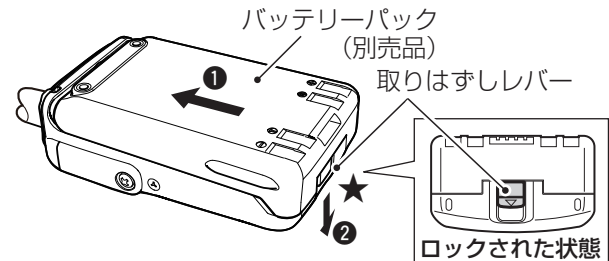
◎ BP-274 :1800mAh min.

バッテリーパックを本体に密着させながら、[❶]の方向にスライドさせます。

なお、本製品には、バッテリーパックとの接点部に防水用パッキンを取り付けています。

そのため、バッテリーパックを取り付けるときには、「カチッ」と鳴ってから、さらに[❶]の方向に押し込んでください。

※取り付けるとき、バッテリーパックが無線機底面にある取りはずしレバーでロックされていることを確認します。



★取りはずしは、下記のことにご注意してください。

△警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

※充電方法については、9章をご覧ください。

△注意

次のことを守らないと、指や爪をいためるおそれがあります。

バッテリーパックを取りはずすとき、バッテリーパックを[❶]の方向に軽く押し込んで、取りはずしレバーが軽く動く状態になってから、[❷]の方向にりはずしレバーを押し下げてください。

1 ご使用前の準備

■ 電源の入れかたと音量調整について

1 電源を入れる

ツマミを時計回りに回して電源を入れます。

● 電源が入ると、待ち受け(相手から呼び出しを受けられる)状態(ランプ:消灯)になります。

※ツマミを逆方向に「カチッ」と鳴るまで回すと、電源が切れます。

※防塵/防水対応により、簡単に回らない構造になっています。

※表示部とスイッチ(前面部)の照明は、[PTT]以外の操作をしたとき、約5秒点灯します。

【自局番号表示】

個別呼び出し機能が設定されているとき、表示されます。

表示例



2 音量を調整する

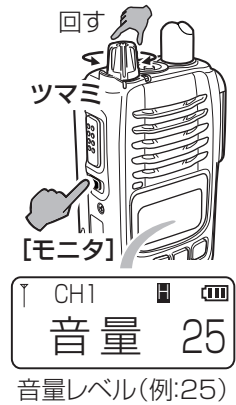
電波を受信中に、ツマミを回して聞きやすい音量に調整します。

【音を確認するには】

[モニタ]を押しながら、「ザー」という音を聞いて音量を確認します。

※「ザー」と音が出ない場合は、モニター機能が設定されていません。

モニター機能(P.7-1)の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



ご注意

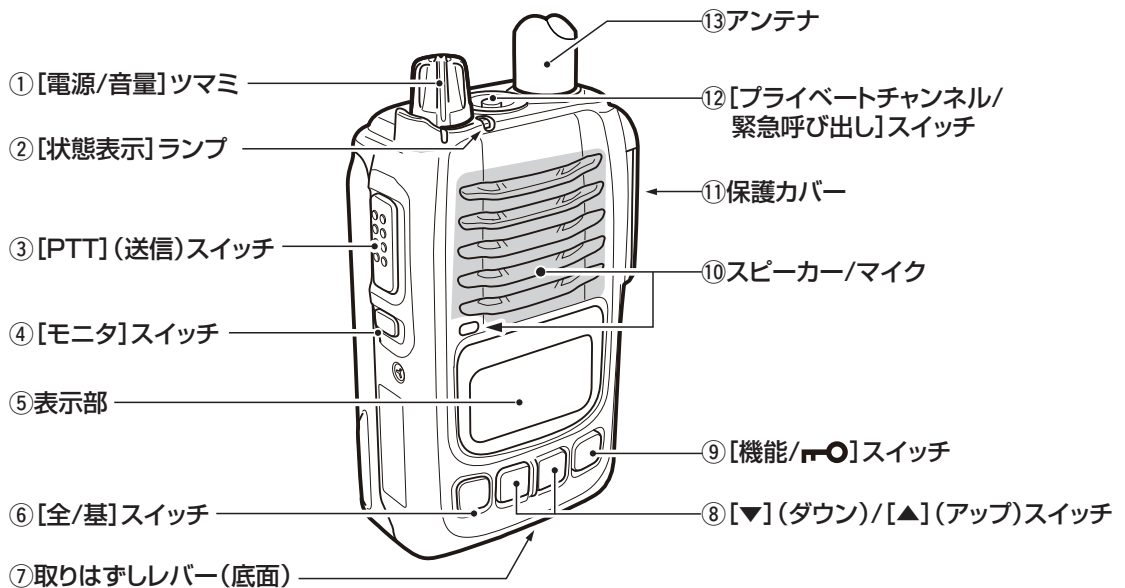
音量が最小のときは、操作音(ブープ音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

ご参考 チャンネル番号音声案内機能

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※使用しないときは、詳細セットモードの[チャンネル番号音声案内]項目で設定を「OFF」にできます。

■ 前面部



① [電源/音量] ツマミ

電源の「ON」/「OFF」と音量(0~32)の調整をします。
※右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

② [状態表示] ランプ

[PTT] (送信) スイッチを押しているあいだ(送信中)は赤色、電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。
※着信表示機能(P.7-1)が設定されている状態で着信すると、橙色で点滅します。

③ [PTT] (送信) スイッチ

[PTT] (送信) スイッチを押すと「送信」状態、はなすと「受信」状態になります。

④ [モニタ] スイッチ

モニター機能(P.7-1)が設定されている場合、押しているあいだ動作します。
※下記のとおり、使用します。

- ◎音を聞きながら音量調整するとき
- ◎ユーザーコード(4章)が異なる他局の通話を聞くと
- ◎秘話機能(5章)を使用しない他局の通話を聞くと

⑤ 表示部(P.2-2)

運用状態が表示されます。
※音量調整、および送信/受信以外の操作で、表示部と前面部のスイッチの照明が約5秒点灯します。

⑥ [全/基] スイッチ

◎個別呼び出し機能(3章)設定時、短く押すごとに、相手局番号(全体/基地/個別/グループ)が選択できます。
◎長く(約1秒)押すごとに、送信出力(P.7-2)を切り替えることができます。

⑦ 取りはずしレバー

バッテリーパック、またはアルカリ電池ケースの取り付けや取りはずしをします。

⑧ [▼] (ダウン)/[▲] (アップ) スイッチ

通話チャンネル番号(P.3-1)、ユーザーコード(4章)、個別呼び出し機能(6章)使用時の個別(相手局)番号やグループ番号の選択ができます。
※セットモードや詳細セットモードのときは、押すごとに、各設定項目(8章)の設定内容を選択できます。

⑨ [機能/ r-O] スイッチ

◎短く押すごとに、「通話チャンネル番号」→「ショートメッセージ」*→「ユーザーコードグループ番号」*→「個別(相手局)番号」*の順に切り替わります。
★設定されている場合、切り替えできます。
◎長く押すごとに、ロック機能(P.7-1)の「ON」/「OFF」が切り替わります。

⑩ スピーカー/マイク

内蔵のスピーカーとマイクです。
※別売品のスピーカーマイクロホンやヘッドセットなどを接続するときは、動作しません。

⑪ 保護カバー

別売品のスピーカーマイクロホンやヘッドセットなどを接続するコネクタを保護します。
保護カバー(P.1-1)をはずすと、接続できます。

⑫ [プライベートチャンネル/緊急呼び出し] スイッチ

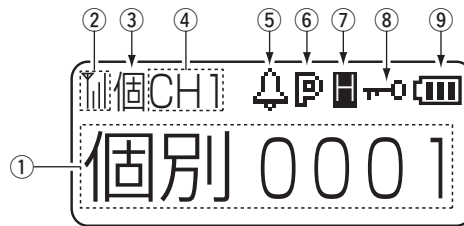
設定されている場合、下記の操作ができます。
◎短く押すと、プライベートチャンネル(P.7-2)を表示します。
もう一度、短く押すと、元の表示に戻ります。
◎長く押すと、緊急呼び出し機能(P.7-3)が動作します。

⑬ アンテナ

電波を発射、または受信する部分で、本製品に付属のアンテナを接続(P.1-1)します。

2 各部の名称と機能

■ 表示部



①【相手局番号/設定内容】表示

音量、チャンネル番号、個別番号などを表示します。

※セットモード、または詳細セットモードのときは、選択した設定項目を表示します。(8章)

また、ツマミを回すと、音量(0~32)が表示されます。

※チャンネルや個別番号に名称を設定する場合、またショートメッセージを表示させる場合はお買い上げの販売店にご依頼ください。

②電界強度表示

受信している電波の強度(目安)が右記の4段階で表示されます。



③モード表示

◎個別呼び出し機能(6章)で運用中の[個](個別)/[全](全体)/[基](基地)/[グ](グループ)の各モードが表示されます。

◎個別呼び出し機能(6章)でグループメンバーに設定されているグループ番号は、[X]が表示されます。

※相手の無線機にメンバー指定(X)されていないグループ番号でグループ呼び出しをしても、その相手には、自分の音声聞こえません。

④ガイドメッセージ表示

◎通話チャンネル番号の代わりに、漢字やアルファベットで①の部分に表示されているとき、そのときの通話チャンネル番号が表示されます。

◎セットモード時に「SET」が、ショートメッセージ選択画面時にメッセージが表示されます。

◎秘話が設定されている通話チャンネルは、[CH]が表示されます。

⑤🔔(ベル)

◎個別呼び出しによる着信時、点滅します。(P.6-5)

◎ポケットビープ機能(P.8-3)が設定されているとき、点灯します。

⑥P(Pベル機能)

Pベル機能(P.8-2)設定時、表示されます。

⑦📶/📶/📶(送信出力/受信専用)

各通話チャンネルの送信出力設定(High/Low)、受信専用チャンネル*が表示されます。

📶:ローパワー(1W)選択時の表示

📶:ハイパワー(5W)選択時の表示

📶:上空用チャンネル(受信専用:S1~S5)、または送信禁止*が設定された通話チャンネルを選択時に点灯

★設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

⑧🔒(ロック機能)


ロック機能(P.7-1)が動作しているときの表示です。

⑨🔋(電池残量)





電池残量が4段階で表示されます。

2 各部の名称と機能


◇ 電池の残量表示について

表示は、バッテリーパック、またはアルカリ電池ケースの電池残量に応じて変化します。

※残量が少なくなったら、バッテリーパックの場合は、充電し、アルカリ電池ケースの場合は、新しいアルカリ乾電池と交換してください。


表示	電池の残量表示について
	十分に容量があります。
	◎バッテリーパックの場合は、充電する時期です。 (長時間の運用はできません。) ◎アルカリ電池ケースの場合は、電池を交換する時期です。(長時間の運用はできません。)
	◎バッテリーパックの場合は、すぐに使えなくなるため、充電が必要です。 ◎アルカリ電池ケースの場合は、電池の交換が必要です。
	ほとんど残量がなく、表示が点滅し、残量警告音が鳴ります。(無線機の運用はできません。)

◇ 電池の残量警告音について

残量表示が表示になると、残量警告音が「ピーピーピー」と、約30秒ごとに鳴ります。

警告音が鳴り出したらすぐに充電してください。

また、アルカリ電池ケースの場合は、BP-221 (別売品) に付属の取扱説明書を参考に、新しいアルカリ乾電池と入れ替えてください。

※表示の状態で使用すると、残量警告音が「ピーピーピー…」と2秒間鳴りつづけたあと、「電源OFF」と表示されてから、無線機の電源が自動的に切れます。

相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの簡単な通話のしかたについて説明しています。

※「基本的な運用手順について」(P.v)と併せてご覧ください。

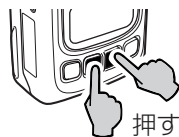
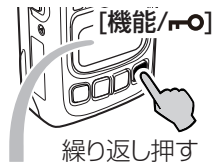
1 通話チャンネルを合わせる

【▼】/【▲】を押して、相手と同じ通話チャンネル番号に合わせます。

- 選択範囲: 01~14、16~30

※通話チャンネルが表示されていないときは、【機能/PTT】を繰り返し押しします。

※通話チャンネルとは、通話に使用する周波数のことです。相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。



【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示します。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、

ユーザーコードによる通話(P.4-1)や秘話機能(P.5-1)、個別呼び出し機能(P.6-1)による通話に使用できません。

「呼出CH」で呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH30)に変更してから通話してください。



2 【PTT】(送信)スイッチを押す

【PTT】を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】を押しているあいだは、ランプが赤色に点灯します。

※【PTT】をはなすと、待ち受け状態(ランプ:消灯)になります。



【マイクの使いかた】

マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

ご参考

◎ランプが緑色に点灯中は、混信防止機能(P.3-2)が動作して、送信できない場合があります。

◎【PTT】を押したとき、「ピッ」と鳴ったら、通話相手に呼びかけてください。

3 相手の音声を受信する

【PTT】をはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信(応答)すれば、受信した音声聞こえます。

※信号を受信中は、ランプが緑色に点灯して、受信している電波の強度(目安)を4段階で表示します。



※通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)を受信しているときも、ランプが緑色に点灯して、電波の受信状態を表示します。

【応答するとき】

待ち受け状態(ランプ:消灯)になってから、【PTT】を押します。

3 通話のしかた

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。

制限時間の10秒前になると、「ピッ」と鳴ります。

連続通話時間が5分になると、警告音が「ブツ」と鳴って、自動的に送信を停止します。

※送信を自動停止すると、1分間は通話できません。

通話を再開する場合は、1分後に【PTT】を押してください。

2. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると混信を受け通話ができない場合があります。

また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう、自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。

キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。

3秒以上通話が途切れた場合、本製品が通話を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがあります。故障ではありません。

本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

◇通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。

(送信出力:5W)

見通しのよい場所 :約4km

市街地や建物内 :約0.5~1km

◇通話範囲であっても、山や建物などが障害物となつて、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

5. パワーセーブ機能について

何も操作しない(受信もしない)状態が10秒を超えると、自動的に本製品の動作を休止状態にし、電池の電流消費を抑えます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

詳細セットモード(P.8-1)から設定を変更できます。

ご注意

パワーセーブ機能は、個別呼び出し機能(P.8-4)や緊急呼び出し機能(P.7-3)と併用できません。

※緊急呼び出し機能をご使用の場合は、設定の変更をお買い上げの販売店にご依頼ください。

4

ユーザーコード(UC)による通話

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。通話チャンネル(P.3-1)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。

※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、ユーザーコードを使用できないため、本章の操作はできません。

ご参考

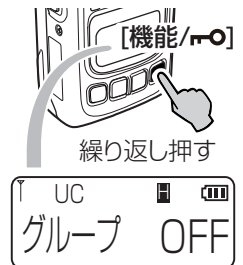
通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH30)ごとに異なるユーザーコードを使用する場合は、「■チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには」(P.4-2)でユーザーコードの設定を変更してください。

■ チャンネル共通のユーザーコードを設定して通話するには

1 UC(ユーザーコード)表示にする

【機能/】を繰り返し短く押し、「グループ OFF」(初期設定)表示を選択します。

※表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、「通話チャンネル」表示に戻ります。



ご参考

「グループ OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、ユーザーコードを設定している相手には聞こえません。

2 ユーザーコードを設定する

【▲】を押して、通話する相手と同じユーザーコードを設定します。

- 選択範囲: OFF(000)、001~511

※「呼出CH(CH15)」以外の通話チャンネルすべてに、設定したユーザーコードが使用されます。

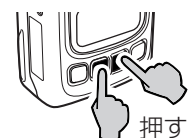


3 通話チャンネルを合わせる

①【機能/】を押して、通話チャンネルを表示させます。

②【▼】/【▲】を押して、相手と同じ通話チャンネル番号に合わせます。

- 選択範囲: 01~14、16~30



4 ユーザーコード(UC)による通話

■ チャンネル共通のユーザーコードを設定して通話するには(つづき)

4 [PTT](送信)スイッチを押す

[PTT]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

● [PTT]を押しているあいだは、ランプが赤色に点灯します。

※ [PTT]をはなすと、待ち受け状態(ランプ:消灯)になります。



5 相手の音声を受信する

[PTT]をはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信(応答)すれば、受信した音声聞こえます。

※ 信号を受信中は、ランプが緑色に点灯して、受信している電波の強度(目安)を4段階で表示します。



※ 通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なるユーザーコードを使用して通話している)の電波を受信しているときも、ランプが緑色に点灯して、電波の受信状態を表示します。



■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには

通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用できます。

1 詳細セットモードにする

① 本製品の電源を切った状態で、**[機能/電源]**/**[▼]**/**[▲]**を同時に押しつづけます。

② ツマミを回して、電源を入れます。

● **[MODE CHG]**が表示されます。

③ すべてのスイッチから手をはなして、すぐに、**[機能/電源]**を短く押します。

● **[ピピッ]**と鳴って、**[SET]**を表示したあと、設定項目(例:Pビープ OFF)が表示されれば、詳細セットモードに移行しています。

※ 詳細セットモードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

※ この章の説明で使用する設定値は、4-1ページの図の【使用例】に記載の値を使用しています。



③ **[機能]**を短く押す



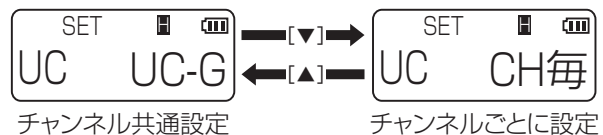
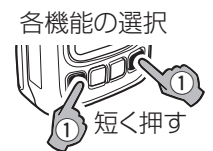
設定項目が表示される



2 「UC CH毎」を選択する

① **[機能/電源]**、または**[全/基]**を繰り返し短く押して、「UC UC-G」(初期設定)表示を選択します。

② **[▼]**/**[▲]**を押して、「UC CH毎」を選択します。



4 ユーザーコード(UC)による通話

■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには(つづき)

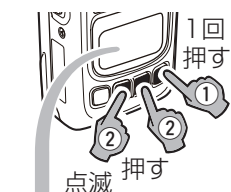
3 ユーザーコードを設定する

①【機能/☎】を短く1回押して、「01 OFF」(初期設定)表示を選択します。

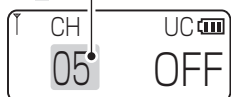


②【▼】/【▲】を押して、ユーザーコードを使用する通話チャンネル(例:05)を選択します。
※「呼出CH(CH15)」には、ユーザーコードを設定できません。

CH毎ユーザーコード

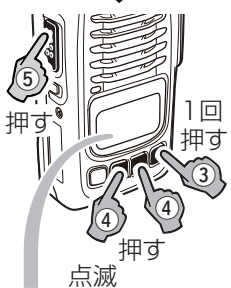


③【機能/☎】を短く1回押します。
●「OFF」表示が点滅します。



④【▼】/【▲】を押して、選択した通話チャンネル(例:05)のユーザーコード(例:001)を選択します。

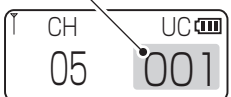
通話チャンネル選択



※ほかの通話チャンネルのユーザーコードも設定する場合は、【全/基】を短く1回押してから、手順②～④の操作を繰り返します。

⑤【PTT】を押します。

●詳細セットモードが解除され、ユーザーコードが確定されます。



ユーザーコード選択

4 通話チャンネルを合わせる

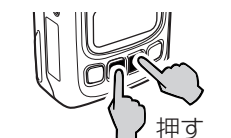
①【機能/☎】を押して、通話チャンネルを表示させます。

②【▼】/【▲】を押して、相手と同じ通話チャンネル番号に合わせます。

●選択範囲:01～14、
16～30



通話チャンネル表示
(例:05チャンネル)



5 【PTT】(送信)スイッチを押す

【PTT】を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

●【PTT】を押しているあいだは、ランプが赤色に点灯します。

※【PTT】をはなすと、待ち受け状態(ランプ:消灯)になります。

赤色に
点灯



6 相手の音声を受信する

【PTT】をはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信(応答)すれば、受信した音声聞こえます。

※信号を受信中は、ランプが緑色に点灯して、受信している電波の強度(目安)を4段階で表示します。



緑色に点灯



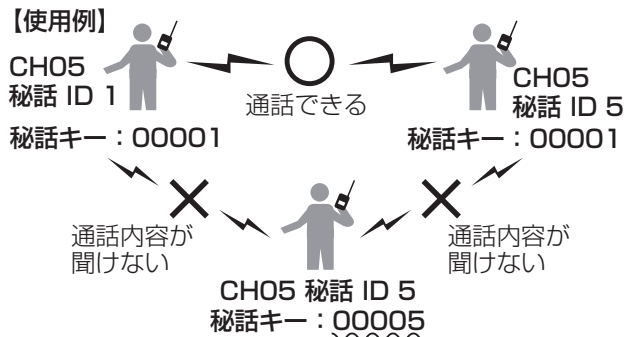
受信中の表示例

※通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なるユーザーコードを使用して通話している)の電波を受信しているときも、ランプが緑色に点灯して、電波の受信状態を表示します。

5 盗聴防止を設定するには

秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。

通話チャンネルと秘話IDに設定された秘話キーが一致した相手と通話できます。



※秘話ID(1~16)ごとに異なる秘話キー(00001~32767)を設定できます。

※秘話キーが同じ相手であれば、秘話IDが異なる場合でも通話できます。

※ユーザーコードや個別呼び出し機能とも併用できます。

【「呼出CH」選択時のご注意】

「呼出CH(CH15)」は、呼出用チャンネルのため、設定した秘話機能が無効になります。

■ 秘話機能を設定するには

1 詳細セットモードにする

①本製品の電源を切った状態で、**【機能/**/【▼】/【▲】を同時に押しつづけます。

②ツマミを回して、電源を入れます。

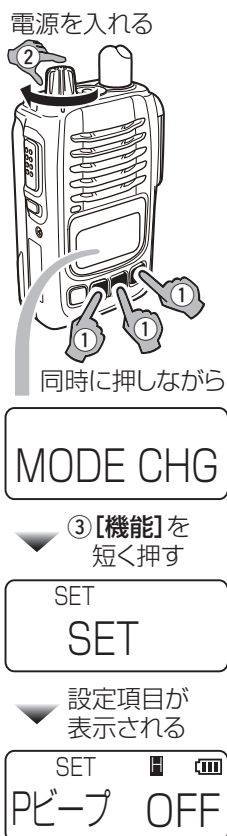
●**【MODE CHG】**が表示されます。

③すべてのスイッチから手をはなして、すぐに、**【機能/**を短く押します。

●**【ピピッ】**と鳴って、**【SET】**を表示したあと、設定項目(例:Pビープ OFF)が表示されていれば、詳細セットモードに移行しています。

※詳細セットモードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

※この章の説明で使用する設定値は、上図の**【使用例】**に記載の値を使用しています。



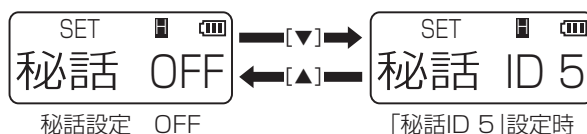
2 秘話IDを選択する

①**【機能/**、または**【全/基】**を繰り返し短く押して、「秘話 OFF」(初期設定)表示を選択します。

②**【▼】**を押して、秘話 ID(例:ID 5)を選択します。

● 選択範囲:ID 1~ID 16

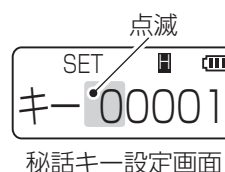
※「秘話 OFF」表示に戻すときは、**【▼】**を繰り返し押します。



3 秘話キーを設定する

①**【機能/**を長く押しします。

● 設定されている秘話キー(例:キー 00001)が表示され、変更できる桁が点滅します。



②変更する桁を右へ移動するときは**【機能/**、左へ移動するときは**【全/基】**を繰り返し押しします。



③**【▼】/【▲】**を押して、選択した秘話 ID(例:ID 5)に割り当てる秘話キー(例:00005)を選択します。

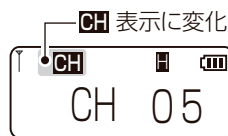
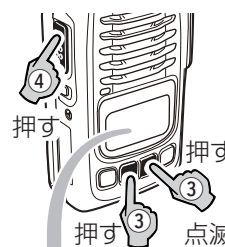
● 選択範囲:00001~32767

※秘話IDを選択しなおす場合は、**【機能/**を長く押しします。



④**【PTT】**を押します。

● 詳細セットモードが解除され、秘話機能の設定が有効になります。



秘話設定時の表示(例:5チャンネル選択時)



5 盗聴防止を設定するには

■ 秘話機能を使用して通話するには

秘話機能を使用して通話をする手順です。

※5-1ページで、秘話IDに設定した秘話キーを下記で選択した通話チャンネルに使用できます。

ご注意

機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

1 通話チャンネルを合わせる

- ①【機能/PTT】を押して、通話チャンネルを表示させます。
- ②【▼】/【▲】を押して、【CH】が表示された相手と同じ通話チャンネル番号に合わせます。
 - 選択範囲: 01～14、16～30



2 【PTT】(送信)スイッチを押す

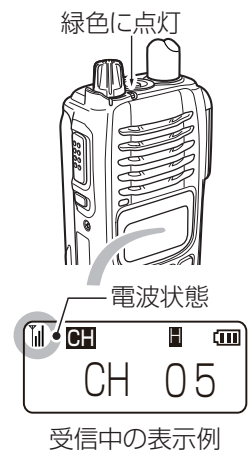
- 【PTT】を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。
- 【PTT】を押しているあいだは、ランプが赤色に点灯します。
- ※【PTT】をはなすと、待ち受け状態(ランプ:消灯)になります。



3 相手の音声を受信する

【PTT】をはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信(応答)すれば、受信した音声聞こえます。

※信号を受信中は、ランプが緑色に点灯して、自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信した電波を受信すれば、音声聞こえます。





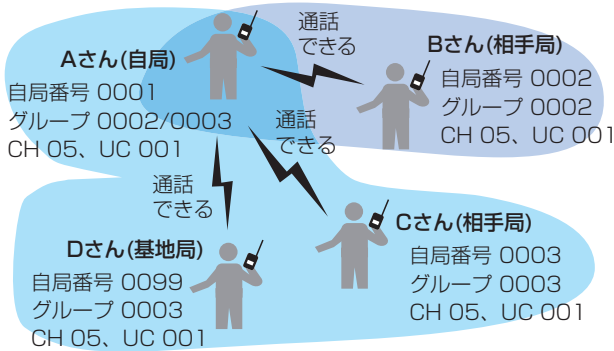
- ※通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キーを使用して通話している)の電波を受信しているときも、ランプが緑色に点灯し、電波の受信状態を表示します。
- ※他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出し機能を使用した呼び出しかたの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】

下図の   は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



※ 秘話機能(5章)とも併用できます。

【「呼出CH」表示での機能制限について】



呼出用チャンネル表示

CH15は、呼出用チャンネルで、「呼出CH」と表示されません。

「呼出CH」表示のときは、ユーザーコードによる通話(4章)や秘話機能(5章)、個別呼び出し機能による通話に使用できません。

呼び出しかたには、次の4種類の方法があります。

◎全体呼び出し



全体呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じ相手局(使用例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎基地局呼び出し



基地局呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す基地局(使用例:Dさん)の自局番号(使用例:0099)を指定して呼び出します。

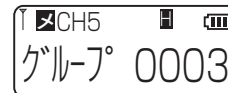
◎個別呼び出し



個別呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(使用例:Bさん)の自局番号(使用例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し



グループ呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、メンバー指定(P.8-5)されたグループ番号(使用例:グループ 0003)に所属するすべての相手(使用例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには

通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

1 詳細セットモードにする

① 本製品の電源を切った状態で、**【機能/機】** / **【▼】** / **【▲】** を同時に押しつけます。

② ツマミを回して、電源を入れます。

● **【MODE CHG】** が表示されます。

③ すべてのスイッチから手をはなして、すぐに、**【機能/機】** を短く押します。

● **【ピピッ】** と鳴って、**【SET】** を表示したあと、設定項目(例:P ピープ OFF)が表示されていれば、詳細セットモードに移行しています。

※ 詳細セットモードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

※ この章の説明で使用する設定値は、6-1ページの**【使用例】**に記載の値を使用しています。



③ **【機能】** を短く押す



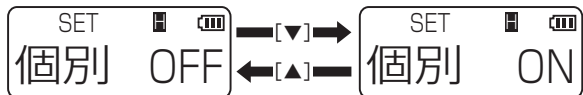
設定項目が表示される



2 個別呼び出し機能を「ON」にする

① **【機能/機】**、または **【全/基】** を繰り返し短く押して、「個別 OFF」(初期設定)表示を選択します。

② **【▼】** / **【▲】** を押して、「個別 ON」を選択します。



個別呼び出し機能OFF

個別呼び出し機能ON

※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

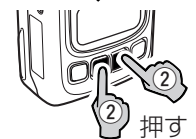
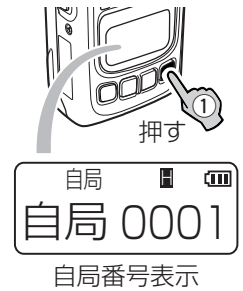
3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

① **【機能/機】** を短く1回押して、「自局 0001」(初期設定)表示を選択します。

② **【▼】** / **【▲】** を押して、自局番号を設定します。

● 選択範囲:0001~0119



【設定例】

個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

Aさん(自局) :0001 Bさん(相手局) :0002
Cさん(相手局) :0003 Dさん(基地局) :0099

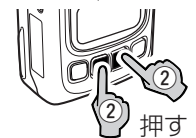
4 基地局番号を設定する

基地局番号とは、基地局として指定された局の番号です。

① **【機能/機】** を短く1回押して、「基地 0099」(初期設定)表示を選択します。

② **【▼】** / **【▲】** を押して、基地局番号を設定します。

● 選択範囲:0001~0119



6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

5 グループ呼び出しを設定する

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

- ① **[機能/☎]**を短く1回押して、「Grp 0001」(初期設定)表示を選択します。

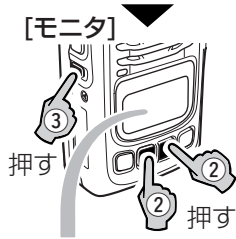


グループ番号の選択

- ② **[▼]/[▲]**を押して、メンバー指定するグループ番号(例: Grp 0002)を選択します。

- 選択範囲:0001~0010

- ③ 選択したグループ番号を表示した状態で、**[モニタ]**を押します。



- メンバー指定を意味する **☒** を表示します。





メンバー指定の状態

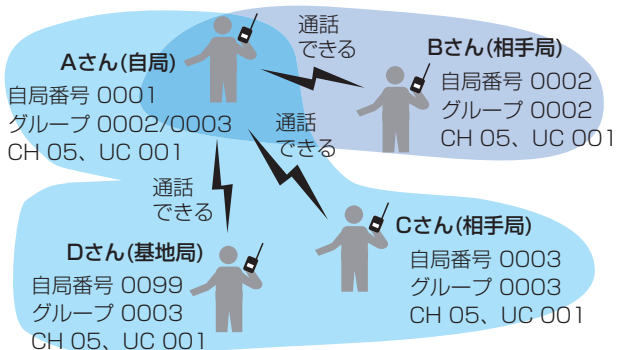
- ※ 複数のグループ番号にメンバー指定する場合は、②と③の操作を繰り返します。

【メンバー指定するグループ番号の例】

グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。

下図の   は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。

- Aさん(自局) :グループ0002/グループ0003
- Bさん(相手局) :グループ0002
- Cさん(相手局) :グループ0003
- Dさん(基地局) :グループ0003



6 変更した設定値を確定する

[PTT]を押して、2~5の手順で変更した設定値を確定します。

- 詳細セットモードが解除され、「IC-D60」が表示されたあと、設定した自局番号(約1秒)が表示されます。
- ※ 設定変更後、**[機能/☎]**、または**[全/基]**を押して、電源を入れなおしても、設定値が確定されます。

【自局番号表示例】



電源投入直後
(起動コメントの表示)

自局番号表示例★

- ★ 自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示(通話チャンネル/個別番号/グループ番号)によって異なります。

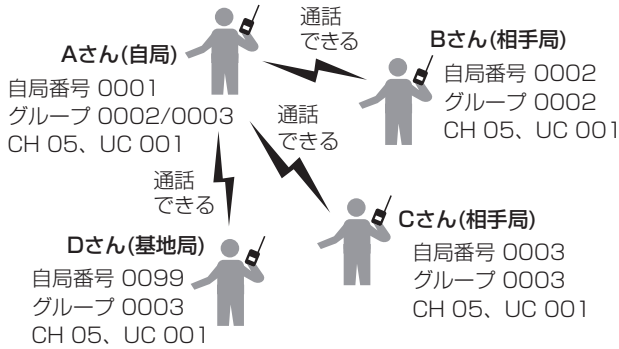
6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには

個別番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して、相手局と通話する方法について説明します。

※ 個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(P.6-2～P.6-3)されているものとして説明しています。

【Aさんから呼び出す場合の設定例】



1 通話チャンネルを合わせる

- ①【機能/↔】を押して、通話チャンネルを表示させます。
- ②【▼】/【▲】を押して、相手と同じ通話チャンネル番号に合わせます。

- 選択範囲: 01～14、16～30

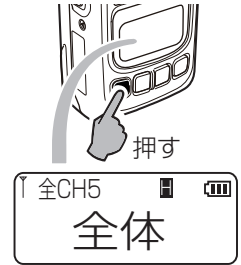


2 個別番号を合わせる

▶ 全体を呼び出すときは

【全/基】を繰り返し押して、「全体」表示を選択します。

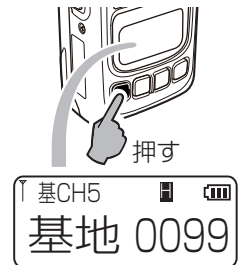
※左図に記載されたBさん/Cさん/Dさんを一齐に呼び出すとき、選択します。



▶ 基地局を呼び出すときは

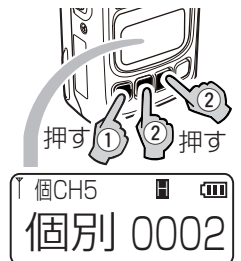
【全/基】を繰り返し押して、「基地局番号」表示(例:基地0099)を選択します。

※左図に記載されたDさん(基地局)を呼び出すとき、選択します。



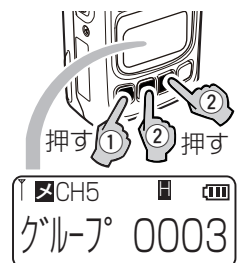
▶ 1局を呼び出すときは

- ①【全/基】を繰り返し押して、「個別番号」表示を選択します。
- ②【▼】/【▲】を押して、相手(例: Bさん)の自局番号(例: 個別0002)に合わせます。



▶ グループを呼び出すときは

- ①【全/基】を繰り返し押して、「グループ番号」表示を選択します。
- ②【▼】/【▲】を押して、呼び出しをする相手(例:Cさん)のグループ番号(例:グループ0003)に合わせます。



6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

3 [PTT] (送信) スイッチを押す

[PTT] を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] を押し続けているあいだは、ランプが赤色に点灯します。

※ [PTT] をはなすと、待ち受け状態 (ランプ: 消灯) になります。



【グループ呼び出しの特長】

同じグループ番号でメンバー指定 (■) を設定している受信局だけが、送信局からの音声聞こえます。

呼び出しを受けると、下図のように、個別番号とグループ番号を交互に点滅します。

グループ呼び出しに回答するには、グループ番号と個別番号が交互に点滅しているあいだに、[PTT] を押します。

終話するまでのあいだに、送信と受信を交互にすることで、通話をつづけられます。

- 呼び出されたときの表示



グループ番号を点滅表示

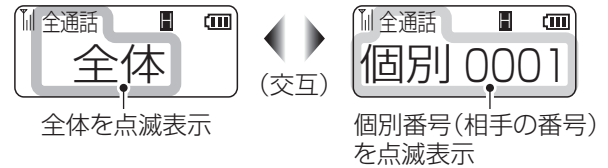
個別番号 (相手の番号) を点滅表示

4 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、下図の表示状態で [PTT] を押し、応答できます。

- ◎ 全体呼び出しを受けたとき

全体と個別番号を交互に点滅表示します。



全体を点滅表示

個別番号 (相手の番号) を点滅表示

- ◎ 基地局から呼び出しを受けたとき

基地局番号を点滅表示します。



個別番号 (基地局の番号) を点滅表示

ポケットビープ機能や呼び出しメロディーが設定されているときは、設定されたビープ音やメロディーが鳴ります。(P.7-2)

※ 応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。

- ◎ 個別呼び出しを受けたとき

個別番号を点滅表示します。



個別番号 (相手の番号) を点滅表示

ポケットビープ機能や呼び出しメロディーが設定されているときは、設定されたビープ音やメロディーが鳴ります。(P.7-2)

※ 応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。

- ◎ グループ呼び出しを受けたとき

個別番号とグループ番号を交互に点滅表示します。



グループ番号を点滅表示

個別番号 (相手の番号) を点滅表示

7 そのほかの機能について

■ ロック機能

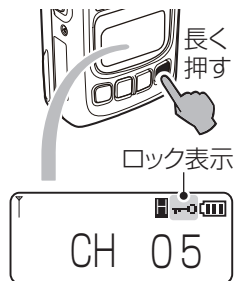
不用意に無線機のスイッチに触れても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ビピッ」と鳴るまで、**[機能/ℙ]**を、長く押します。

- **[機能/ℙ]**が表示されます。

※同じ操作をすると、解除できます。



【ロック中にできる操作】

- ◎ロック機能の解除
- ◎送信/受信
- ◎モニター機能の「ON」/「OFF」
- ◎電源の「入」/「切」と音量調整★1

★1 ロック中に音量調整できるように、詳細セットモード(P.8-6)で変更できます。

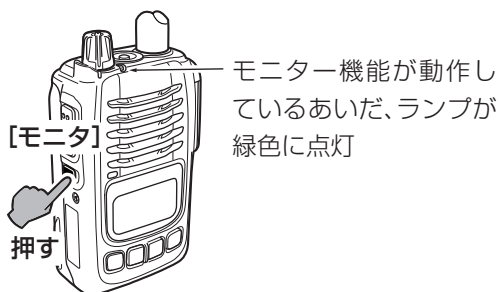
【ロック解除時のつまみ位置にご注意】

ロック機能動作中につまみ位置を変更した場合、ロック機能を解除するまで、変更した音量に切り替わりません。

■ モニター機能

[モニタ]を押しているあいだ動作します。

※**[モニタ]**スイッチの動作は、詳細セットモードで変更できます。



モニター機能は、次のような場合に、使用します。

- ◎受信音がない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき
- ◎相手局番号、グループ番号などが異なる他局の通話を聞くとき
※秘話機能を使用している他局の信号を受信した場合は、秘話処理された電子音だけが聞こえます。

■ 着信表示機能

ユーザーコードによる呼び出し、個別呼び出し機能による基地局、または個別呼び出しを受けたとき、ランプの点滅(橙色)で着信を通知する機能です。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



■ Pベル機能

応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)する機能です。

◎Pベル機能が設定されているときは、**[P]**を表示します。

◎Pベル機能を設定すると、全体呼び出し、基地局呼び出し、グループ呼び出し、個別呼び出しのいずれかで着信があった場合、相手の音声をミュート(聞こえないように)すると同時に、ブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音★2で通知します。

★2 メロディー音の変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

◎**[PTT]**を押して応答すると、音声ミュートを解除し、相手の音声聞こえます。

◎セットモード(P.8-2)で設定できます。

■ ポケットビープ機能

ユーザーコードや個別呼び出し機能による呼び出しを受けたとき、有効になる機能です。

※ビープ音、またはメロディー音★3は、**[機能/ℙ]**、**[全/基]**、**[▼]/[▲]**、**[モニタ]**のいずれかのスイッチを操作すると、停止できます。

※詳細セットモード(P.8-3)で設定できます。

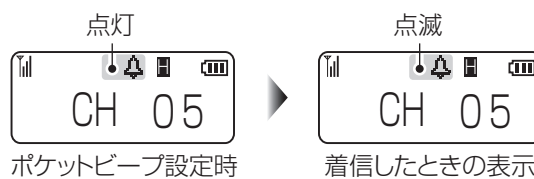
設定されているときは、**ベル**が点灯します。

※個別呼び出し機能とユーザーコードの設定を「OFF」にすると、**ベル**が消灯します。

★3 メロディー音の変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき】

ベルの点滅とビープ音で通知します。

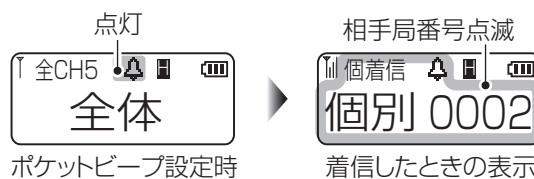


【個別呼び出しを受けたときの着信表示例】

個別番号と**ベル**の点滅、ビープ音で通知します。

※ユーザーコードと併用したときも同じです。

※ポケットビープ機能が設定されていない状態で呼び出しを受けたときは、ビープ音は鳴らず、個別番号と**ベル**の点滅だけになります。



7 そのほかの機能について



■ 呼び出しメロディー機能


Pベル機能、ポケットビープ機能を設定したときのそれぞれの呼び出し音をメロディー音(9種類)に設定できます。

※各メロディー音の変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 送信出力の切り替え

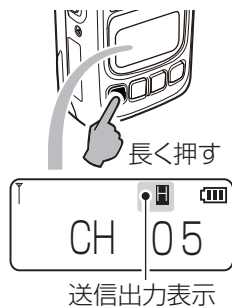
【全/基】を長く(約1秒)押しごとに、送信出力をハイパワー(5W)、ローパワー(1W)に切り替えます。

ハイパワー選択時は「」が、ローパワー選択時は「」が点灯します。

※選択した通話チャンネルが受信専用の場合は、「」が点灯し、送信出力の切り替えはできません。

※無線機本体で切り替えできるようにするには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



■ チャンネル番号音声案内機能

【▼】/【▲】を押して通話チャンネルを切り替えると、通話チャンネルを音声で通知します。

表示部を確認することなく、設定した通話チャンネルを音声で確認できます。

■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声途切れるなどして、通話がつづけられない状態になると、「ピンポン」と通知音が鳴ります。

※通知音が鳴ったときは、場所を移動して通話してください。

受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、通知音は止まります。

■ LCDコントラストの調整

本製品の表示部のコントラスト(濃淡)を調整できます。

※無線機本体で調整を変更するには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ プライベートチャンネル機能

特定の通話チャンネルをプライベートチャンネル(例:呼出CH)に設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)との切り替えが簡単になります。

※工場出荷時やユーザーリセット時、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。

詳細セットモードから設定を変更できます。(P.8-7)

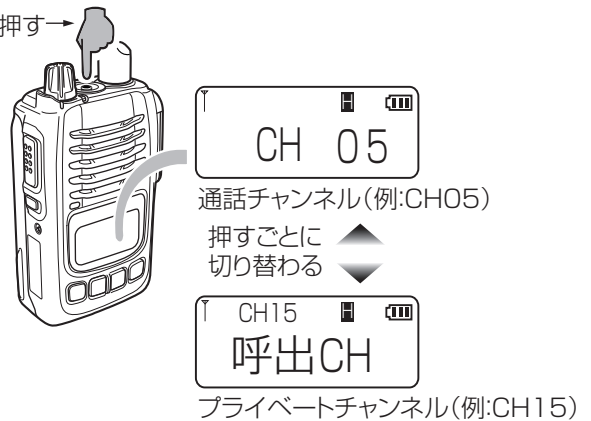
※プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、【プライベートチャンネル/緊急呼び出し】の操作は無効です。

【操作のしかた】

【プライベートチャンネル/緊急呼び出し】を短く押しごとに、通話チャンネル(例:CH 05)とプライベートチャンネル(例:呼出CH)が切り替わります。

※【▼】/【▲】を押すと、通話チャンネルに戻ります。

短く押す→



7 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、通話チャンネルが一致する局に、緊急信号を送出して相手に警告音で通知します。

△警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

本製品にヘッドセットやイヤホンを取り付けて、緊急呼び出し機能を有効に設定する場合は、警告音の音量とツマミが連動するように設定されることをおすすめします。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※パワーセーブ機能(P.8-6)は、「OFF」でご使用ください。

着呼率が著しく低下する原因になります。

※緊急呼び出し機能を使用する場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

お買い上げの販売店で、緊急呼び出し機能を「ON」に設定してください。

緊急呼び出し機能が「OFF」のときや、緊急呼び出しによる送信ができないように設定された通話チャンネル番号では、**【プライベートチャンネル/緊急呼び出し】**を押しつづけても緊急呼び出しができません。

※個別呼び出し機能と緊急呼び出し機能の両方が送信側と受信側に設定されていない無線機は、相手局を呼び出しできません。

※あらかじめ設定されたIDと一致する相手局にだけ、緊急呼び出しをします。

※緊急呼び出しやその呼び出しを受けているあいだは、**【モニタ】**以外は操作できません。

※混信防止(キャリアセンス)機能により、緊急呼び出し機能による送信が制限されることがあります。

下記のような場合、通知できなかつたり、通知できても警告音が鳴らなかつたりすることがあります。

◎警告音が音量調整と連動して変化するように設定されている場合

◎警告音を鳴らさない設定がされている場合

◎動作中、電池の消耗により自動的に電源が切れた場合

◎電波状況の悪化により電波が届かない場合

【緊急呼び出しのしかた】

①相手と同じ通話チャンネル番号に合わせます。

②「緊急」と表示されるまで、**【プライベートチャンネル/緊急呼び出し】**を長く押し続けます。

●「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔でランプが赤色に点滅します。

③「緊急」表示が点滅した状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

●応答があると、警告音が停止すると同時に、「緊急」表示の点滅が停止して、ランプが緑色に点灯します。

④通話をつづけます。

●終話すると、緊急呼び出し前の状態に戻ります。



【緊急呼び出しを受けたときは】

①警告音が「ピピピ…」と鳴って、ランプが赤色に点滅します。

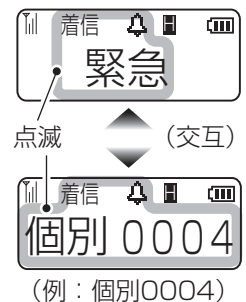
また、「緊急」と「相手局番号」を交互に表示します。

②**【PTT】**を押して、応答します。

●警告音が停止します。

③通話をつづけます。

●終話すると、緊急呼び出しを受ける前の状態に戻ります。



ご注意

本製品に搭載されている緊急呼び出し機能は、電池の消耗、周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によっては、通信できないこともありますので、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。

補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。緊急呼び出し機能を使用できないことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

7 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

個別呼び出し機能が設定された無線機で、個別呼び出し（全体/基地局/個別/グループ）と同時に、選択したショートメッセージが送信できます。

※送信するメッセージの設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【ショートメッセージを送信するには】

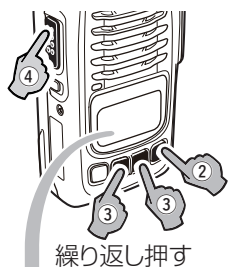
①通話チャンネル番号と相手局番号を選択します。(P.6-4)



②設定されたショートメッセージ（最大10件）を選択する画面が表示されるまで、**【機能】**を繰り返し押しします。

①送信する相手局を選択(例：CH5、個別0002)

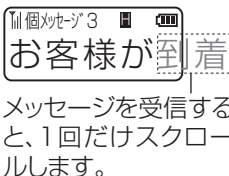
③**【▼】/【▲】**を押して、ショートメッセージを選択します。



④選択したショートメッセージが表示された状態で、**【PTT】**を押して、相手局に呼びかけます。

●ランプが赤色に点灯します。

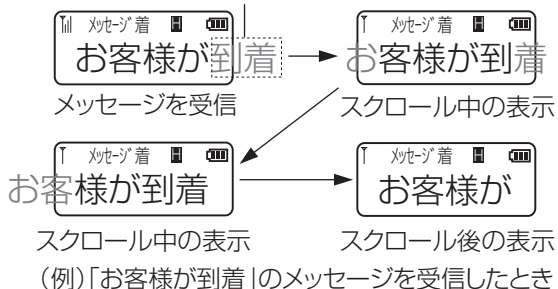
⑤別のショートメッセージをつづけて送信するときは、手順②～手順④を繰り返し操作します。



【受信したショートメッセージの確認】

メッセージを受信すると、スクロール表示されます。

メッセージを受信すると、1回だけスクロールします。



※表示されているショートメッセージを再度スクロール表示したいときは、**【▼】/【▲】**、**【機能】**のどれかを押しします。

※ショートメッセージ表示を解除するまで、送信できません。

解除するときは、**【全/基】**を押します。

■ 発着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを送受信したとき、個別番号(相手の自局番号)やグループ番号が記憶されます。

記憶された個別番号は、呼び出しに利用できます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

発着信履歴機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【発着信履歴の確認と呼び出しについて】

①**【全/基】**を繰り返し短く押し、「発歴1」、または「着歴1」表示を選択します。

(操作例：着信履歴)



②発信、または着信履歴が2件以上の場合、「発歴1」、または「着歴1」表示の状態では、**【▼】/【▲】**を繰り返し押しすると、確認できます。

※「1」から順に最新の履歴となるように記憶します。

③選択した履歴が表示された状態で、**【PTT】**を押しながら、相手に呼びかけます。

●ランプが赤色に点灯します。



【発着信履歴の内容や件数に異常があるときは】

詳細セットモードの発着信履歴消去(P.8-5)から履歴を消去してください。

それでも改善しない場合は、ユーザーリセット(P.8-7)してください。

【発着信履歴件数と履歴の消去について】

※最大10件の発着信履歴を記憶できます。

10件を超えると、古い履歴から削除されます。

※全体呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

※詳細セットモードから発着信履歴を消去(P.8-5)できます。

セットモード、または詳細セットモードから、本製品の各種機能を変更する方法について説明します。

■ 設定一覧

セットモード、詳細セットモードによって、設定できる項目が異なります。

以下の一覧表を参考に、必要な項目を設定してください。

□欄は、セットモードでも変更できる設定項目です。

機能名称	名称表示	初期値	参照
Pベル* ¹	Pベル	OFF	P.8-2
ポケットビープ	Pビープ	OFF	P.8-3
秘話	秘話	OFF	P.8-3
送信出力	出力	5W	P.8-3
マイクゲイン	マイクG	0dB	P.8-3
電圧低下検出	LBAT	ON	P.8-3
外部電源初期値	EXVC	GND	P.8-4
ユーザーコード	UC	UC-G	P.8-4
CH毎ユーザーコード* ²	01~30	OFF	P.8-4
個別呼び出し	個別	OFF	P.8-4
自局番号* ¹	自局	0001	P.8-4
基地局番号* ¹	基地	0099	P.8-4
グループ/メンバー指定* ¹	Grp(グリスト)	0001	P.8-5
終話後表示* ¹	終表	全体	P.8-5
優先個別番号* ¹ * ⁴	個別	0099	P.8-5
発着信履歴消去* ¹	履歴	---	P.8-5
モニタースイッチの動作	MONI	PUSH	P.8-6
パワーセーブ	PWSV	OFF	P.8-6
キーロック時の音量操作	KYLK	ALL	P.8-6
チャンネル番号音声案内	案内	ON	P.8-6
受信電波強度通知	受通	ON	P.8-6
プライベートチャンネル	PVCH	OFF	P.8-7
プライベートチャンネルの設定* ³	PVCH	呼出	P.8-7
LCDコントラスト	LCD	12	P.8-7
ユーザーリセット* ⁵	リセット	NO	P.8-7

*¹ 個別呼び出しの設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*² ユーザーコードの設定が「CH毎」の場合だけ表示されます。

*³ プライベートチャンネルの設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*⁴ 終話後表示の設定が「優先」の場合だけ表示されます。

*⁵ 設定を「YES」に変更しても、項目を移動すると、「NO」に戻ります。

■ セットモードに移行するには

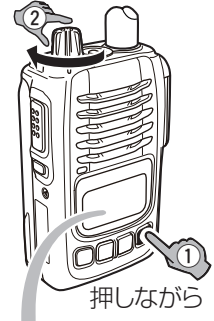
セットモードを解除するまで、送信や受信ができません。

【操作のしかた】

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② 【機能/電源】を押しながら、ツマミを回して、電源を入れます。
- ③ 【MODE CHG】と表示されたら、すべてのスイッチから手をはなして、起動コメント(例: IC-D60)が表示されるまでに、【機能/電源】を短く押します。
 - 【ピピッ】と鳴って、「SET」を表示したあと、設定項目(例: 出力 5W)が表示されていれば、セットモードに移行しています。
- ④ 「■ 設定のしかた」(次ページ)の操作をすると、設定値を変更できます。

※ セットモードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

電源を入れる



MODE CHG

③【機能】を短く押す

SET
SET

設定項目が表示される

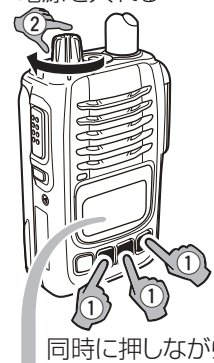
SET
出力 5W

■ 詳細セットモードに移行するには

- ① 本製品の電源を切った状態で、【機能/電源】/【▼】/【▲】を同時に押しつづけます。
- ② ツマミを回して、電源を入れます。
 - 【MODE CHG】が表示されます。
- ③ すべてのスイッチから手をはなして、すぐに、【機能/電源】を短く押します。
 - 【ピピッ】と鳴って、「SET」を表示したあと、設定項目(例:Pビープ OFF)が表示されていれば、詳細セットモードに移行しています。
- ④ 「■ 設定のしかた」(次ページ)の操作をすると、設定値を変更できます。

※ 詳細セットモードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

電源を入れる



MODE CHG

③【機能】を短く押す

SET
SET

設定項目が表示される

SET
Pビープ OFF

8 各種機能の設定

■ 設定のしかた

セットモード、または詳細セットモードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

① **[機能/PTT]**、または**[全/基]**を繰り返し押します。

※表示される設定項目は、各機能の設定値によって異なります。

② 設定を変更する項目が表示された状態で、**[▼]**/**[▲]**を押します。

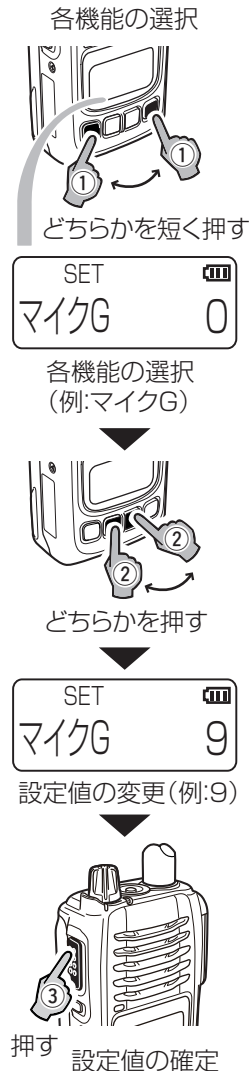
● 設定値が切り替わります。
※ほかの機能も変更するときは、①と②の操作を繰り返します。

③ **[PTT]**を押します。

● 選択した設定値を確定し、セットモードが解除されます。

※設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。(ユーザーリセットを除く)

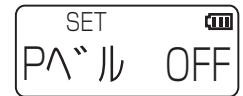
※セットモード、または詳細セットモードを解除するまで通話できません。



■ 設定項目について

Pベル (初期設定:OFF)

個別呼び出し機能が「ON」のとき表示される項目で、Pベル機能を設定します。



Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/基地/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

- OFF : Pベル機能を使用しない(着信と同時に、相手の音声が聞こえる)
- BON : 着信後、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)すると同時に、呼び出しを受けたことをブザー(ピー音、3回)で知らせる
- MON : 着信後、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)すると同時に、呼び出しを受けたことをメロディー音(1回)で知らせる
※メロディー音の変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- BOF : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートするがブザーは鳴らない

【BON、MON、BOFに設定した場合】

- ◎無線機の表示部には、**[P]**が表示されます。
- ◎ポケットビープ機能と併用する場合、基地局/個別呼び出しを受けたとき、Pベル機能のブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音(1回)が鳴ったあとに、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音、またはメロディー音(3回)が鳴ります。
また、「BOF」に設定すると、基地局/個別呼び出しを受けても、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音やメロディー音は鳴りません。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法は、本書P.8-1～P.8-2をご覧ください。

ポケットビープ (初期設定:OFF)



ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF : ポケットビープを使用しない
 - 30F : 「トルルル」と30回連続で鳴る
 - 3F : 「トルルル」と3回連続で鳴る
 - MIN : 「トルルル」と3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
 - CON : 「トルルル」と3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
 - PI - : 「ピー」と1回鳴る
 - PPP : 「ピピピ」と1回鳴る
 - MELO : あらかじめ設定されたメロディーが鳴る
- ※グループ、または全体呼び出しを受けたときは、ポケットビープが「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

秘話 (初期設定:OFF)



通話を他者に聞かれないようにする秘話機能を設定します。

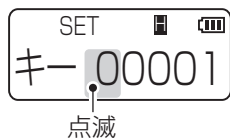
【秘話IDの設定】

- OFF : 秘話機能を使用しない
- ID1～ID16 : 秘話キーを設定する秘話IDをID1～ID16の中から選択する

【秘話キーの設定】

秘話キーを秘話IDに設定します。

【機能】を長く押しすごとに、「秘話ID」と「秘話キー」の表示が切り替わります。



- 選択範囲: 00001～32767

※呼出用チャンネル(15チャンネル)では、秘話通信が禁止されています。

呼出用チャンネルを選択した場合、秘話機能が一時的に「OFF」になります。

ご注意

送信側と受信側に異なる秘話IDを設定していても、秘話キーが同じ場合は、音声がかかります。

送信出力 (初期設定:5W)



送信出力を設定します。

- 5W : 送信出力を5Wに設定する
 - 1W : 送信出力を1Wに設定する
 - CH : チャンネルごとに送信出力を設定する
- ※【全/基】スイッチによる操作の許可、通話チャンネルごとの送信出力の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

マイクゲイン (初期設定:0)



マイクの感度を設定します。(単位:dB)

- 選択範囲: -15(低)～0(中)～9(高) 3dB刻み
- ※設定値を大きくすると比較的小さな声でも通信相手に聞こえやすくなりますが、周りの音も聞こえやすくなります。

電圧低下検出 (初期設定:ON)



バッテリーパックの電圧が低下したとき、バッテリーパック保護のために、無線機本体の電源を自動的に切る設定をします。

- ON : 無線機本体の電源を切る
- OFF : 無線機本体の電源を切らない

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法は、本書P.8-1～P.8-2をご覧ください。

外部電源制御 (初期設定:GND)



HM-159SJ、HM-172、VS-2SJ、OPC-2277のいずれかの別売品を接続する場合は、「5V」に設定してください。

- GND : 接続しない
- 5V : 接続する

※相手局から外部電源制御を受けても、無線機の電源を入れなおすと、この項目で選択した状態に戻ります。

※接続するとき以外は、安全のため、「GND」に設定してご使用ください。

ユーザーコード (初期設定:CH共)



通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- UC-G : 通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する
- CH毎 : 通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する

CH毎ユーザーコード (初期設定:OFF)



この項目は、ユーザーコードの設定が「CH毎」のとき表示される項目で、チャンネルごとのユーザーコードを設定します。

- CHの選択範囲: 01～14、16～30
※15チャンネルはユーザーコードを設定できません。
- UCの選択範囲: OFF、001～511

個別呼び出し (初期設定:OFF)



同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

ご注意

使用する場合は、[パワーセーブ]項目(P.8-6)を「OFF」にして使用してください。

自局番号の設定 (初期設定:0001)



個別呼び出し機能が「ON」のとき表示される項目で、この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。

- 選択範囲: 0001～0119
- ※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。

基地局番号の設定 (初期設定:0099)



個別呼び出し機能が「ON」のとき表示される項目で、個別呼び出しに使用する基地局の個別番号を個別番号設定の内容から設定します。

- 選択範囲: 0001～0119
- ※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法は、本書P.8-1～P.8-2をご覧ください。

グループ/メンバー指定 (初期設定:0001)



この項目は、個別呼び出しの設定が「ON」の場合だけ表示されます。

◎個別呼び出しに使用するグループ番号を設定します。

- 選択範囲:0001～0010
※9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。

◎上記で選択したグループ番号のメンバー参加/不参加を設定します。

グループを選択後、**[モニタ]**を押すごとに、下記を切り替えます。

- グリスト :メンバー不参加
このグループ番号の呼び出しは受けません。(このグループ番号での呼び出しはできません。)
- グリスト :メンバー参加
このグループ番号を呼び出すことも、呼び出しを受けることもできます。
※「メンバーとなるグループID」選択時、表示部にが点灯します。

終話後表示 (初期設定:全体)



個別呼び出し機能が「ON」のとき表示される項目で、通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部の表示をどの状態にするかを設定します。

- 話前 :通話前の表示内容を、再表示する
- 話中 :通話中の内容を、通話終了後も表示する
- 全体 :「全体」(全体呼び出し表示)を表示する
- 基地 :「基地」(基地局番号)を表示する
- 個別 :「個別」(個別番号)を表示する
- GRP :「グループ」(グループ番号)を表示する
- 着歴 :「着歴」(着信履歴)を表示する
- 発歴 :「発歴」(発信履歴)を表示する
- 優先 :「優先個別番号」項目に設定された個別番号、またはグループ番号を表示する

優先個別番号 (初期設定:個別0099)



個別呼び出し機能が「ON」、終話後表示を「優先」に設定した場合だけ表示される項目で、同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

※通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部に表示する個別番号を設定します。

- 選択範囲 :個別0001～0119
:グループ0001～0010

※9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。

発着信履歴消去 (初期設定:---)



個別呼び出し機能が「ON」のとき表示される項目で、自局番号、基地局番号、グループ番号の各設定を変更したときは、この機能で発着信履歴を削除してください。

- --- :何もしない
- CLR :履歴を削除する

※「CLR」を選択後、**[PTT]**を押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、発着信履歴を消去して「---」に切り替わります。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法は、本書P.8-1～P.8-2をご覧ください。

モニタースイッチ動作 (初期設定:PUSH)



【モニタ】を押したときの動作を設定します。

- OFF :動作しない
 - TGL :モニター機能(P.7-1)の「ON」/「OFF」を切り替える
※「ON」で電源を入れなおすと、「OFF」に戻ります。
 - PUSH :押ししているあいだだけモニター機能を「ON」に切り替える
 - 全体 :「全体」(全体呼び出し表示)を表示する
 - 基地 :「基地」(基地局番号)を表示する
 - 個別 :「個別」(個別番号)を表示する
 - GRP :「グループ」(グループ番号)を表示する
 - 着歴 :「着歴」(着信履歴)を表示する
 - 発歴 :「発歴」(発信履歴)を表示する
 - CH :「通話チャンネル」表示に切り替わる
 - MSG :「ショートメッセージ」表示に切り替わる
 - UC :「ユーザーコードグループ」表示に切り替わる
- ※設定されていない機能の動作は、設定しても動作しません。

パワーセーブ (初期設定:OFF)



電池の電流消費を抑えるため、待ち受け状態が10秒を超えるとパワーセーブ機能を自動的に設定する機能の設定です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

ご注意

使用する場合は、[個別呼び出し]項目(P.8-4)を「OFF」にしてください。

※緊急呼び出し機能(P.7-3)とも併用できません。

「OFF」に変更する場合は、設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

キーロック時の音量操作 (初期設定:ALL)



ロック機能動作中の音量操作についての設定です。

- ALL :音量操作を無効にする
- VOL :音量操作を有効にする

＜ロック中にできる操作＞

- ◎ロック機能の解除
- ◎送信/受信
- ◎モニター機能の「ON」/「OFF」
- ◎電源の「入」/「切」

【設定変更時のご注意】

ロック機能が「ON」で電源を切り、詳細セットモードに移行して、[キーロック時の音量操作]の設定を変更したときだけ、ロック機能が「OFF」になります。

チャンネル番号音声案内 (初期設定:ON)



通話チャンネル番号を読み上げる機能の設定です。

- OFF :使用しない
- ON :電源を入れたときや、チャンネルを変更したときに、選択されたチャンネル番号を読み上げる
※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、「呼び出し」と読み上げます。
※上空用チャンネル(CH S1～CH S5)選択時は、チャンネル番号の前に、「上空」を付けて読み上げます。

受信電波強度通知 (初期設定値:OFF)



受信電波強度通知機能の設定です。

- OFF :警告音で通知しない
- ON :通話がつづけられない状態まで受信信号の強度が弱くなると、「ピンポン」と鳴る

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法は、本書P.8-1～P.8-2をご覧ください。

プライベートチャンネル (初期設定:OFF)



プライベートチャンネル機能を設定します。

- ON :使用する
- OFF :使用しない

※「ON」に設定すると、**[プライベートチャンネル/緊急呼び出し]**を短く押すごとに、**[プライベートチャンネルの設定]**項目で設定したプライベートチャンネルと通話チャンネルの切り替え操作が有効になります。

プライベートチャンネルの設定 (初期設定:呼出)



[PvCH(プライベートチャンネル)]項目が「ON」のとき表示される項目で、通話チャンネルの中からプライベートチャンネルにする番号を設定します。

- 選択範囲:01～14,呼出、16～30、S1～S5*
- ★上空用チャンネル(S1～S5)の設定は、販売店にご依頼ください。

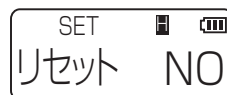
LCDコントラスト (初期設定:12)



表示部のコントラスト(濃淡)を調整します。

- 選択範囲:0(淡)～25(濃)
- ※ **[モニタ]**を押すと、初期設定に戻ります。

ユーザーリセット (初期設定:NO)



すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。

- NO :[PTT]を押しても、初期化しない

- YES :[PTT]を押すと、初期化する

※「YES」を選択後、**[PTT]**を押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。

ご注意

設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ
<http://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

- ★:IP67の防塵/防水性能があります。
- ※防塵/防水性能は、「IP表記について」(P.iv)をご覧ください。

バッテリー関係

- BP-220N* :リチウムイオンバッテリーパック
(2660mAh min.)
- BP-274* :リチウムイオンバッテリーパック
(1800mAh min.)
- BP-221 :アルカリ電池ケース(単3形アルカリ乾電池×5本)

充電する

- BC-161 #02:卓上急速充電器
※電源には、別売品のBC-165が必要です。
- BC-165 :ACアダプター(BC-161 #02用の電源)
- BC-121NA :6連急速充電器
※電源には、別売品のBC-157S/OPC-656が必要です。
- BC-157S :ACアダプター(BC-121NA用の電源)
- OPC-656 :DC電源ケーブル(BC-121NA用)

無線機を保護する

- LC-153 :ハードケースS(BP-274用)
- LC-154 :ハードケースL(BP-220N/BP-221用)
- LC-164T :ハードケースS(BP-274用)
※装着した状態でスイッチ操作と充電(BC-161 #02を使用時)ができます。
- LC-166T :ハードケースL(BP-220N/BP-221用)
※BP-220Nに装着した状態で、スイッチ操作と充電(BC-161 #02を使用時)ができます。
※BP-221に装着した状態で、スイッチ操作ができます。

腰にかける

- MB-86 :回転式ベルトクリップ
- MB-97 :ベルトクリップ(ステンレス製)
- MB-98 :ベルトクリップ
- MB-122 :ベルトクリップ(ステンレス製)
※HM-159FS/HM-159SJ専用

肩にかける

- MB-57L :ショルダーストラップ
※LC-153、LC-154、LC-164T、LC-166Tのいずれかでお使いになれます。
- MB-80 :ショルダーストラップ(BP-220N/BP-221/BP-274用)
※LC-153、LC-154、LC-164T、LC-166Tのいずれかでお使いになれます。

イヤホン関係

- EH-13 :耳かけ型イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※ケーブル長:約50cm
※HS-86(生産終了品)、HS-92のいずれかでお使いになれます。
- EH-14 :オープンエア型イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163Aのいずれかでお使いになれます。
- EH-15 :イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※EH-15B(黒色)
※HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163A、SP-32のいずれかでお使いになれます。
- SP-16 :耳かけ型イヤホン(プラグ:φ3.5mm)
※ケーブル長:約50cm
※SP-16B(黒色)/SP-16BW(黒色/ロングケーブル:約1m)
※AD-52、HM-186SJ、SP-32のいずれかでお使いになれます。
- SP-28 :耳かけ型イヤホン(プラグ:φ2.5mm)
※ケーブル長:約45cm
※HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163Aのいずれかでお使いになれます。
- SP-29 :耳かけ型イヤホン(プラグ:φ3.5mm)
※ケーブル長:約97cm
※AD-52、HM-186SJのいずれかでお使いになれます。
- SP-31 :耳かけ型イヤホン(防水コネクター付き)
※HM-159FS/HM-159SJ専用
- SP-32 :チューブ式イヤホンアダプター
※EH-15、EH-15B、SP-16、SP-16B、SP-16BWのいずれかでお使いになれます。

9 別売品とその使いかた

■ 別売品一覧表(つづき)

★1: IP67の防塵/防水性能があります。

★2: IPX7の防塵/防水性能があります。

★3: IP54の防塵/防水性能があります。

★4: IPX4の防水性能があります。

※防塵/防水性能は、「IP表記について」(P. iv) をご覧ください。

スピーカーマイクロホン関係

HM-159FS*2: 防水形スピーカーマイクロホン
※MB-122、SP-31を組み合わせてもお使いになれます。
※イヤホン装着時も、スピーカーから音が出ます。

HM-159SJ*2: 防水形スピーカーマイクロホン
※MB-122、SP-31を組み合わせてもお使いになれます。
※ご使用になるには、外部電源制御の設定(P.8-4)が必要です。

HM-172*1: 防水形スピーカーマイクロホン
※ご使用になるには、外部電源制御の設定(P.8-4)が必要です。

HM-183SJ*2: 防水形スピーカーマイクロホン

HM-186SJ: 小型スピーカーマイクロホン
※SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29のいずれかと組み合わせてもお使いになれます。

スピーカー関係

EH-11: イヤーパッド型スピーカー(プラグ: ϕ 2.5mm)
※9-7ページと併せてご覧ください。

EH-12: ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ: ϕ 2.5mm)
※ヘルメットのストラップに取り付けて使用します。
※9-7ページと併せてご覧ください。

変換アダプター/アンテナ

AD-52: イヤホンジャックアダプター(ジャック: ϕ 3.5mm)
※9-6ページと併せてご覧ください。

FA-S05U*1: ショートアンテナ(約5cm)

FA-S06U*1: ミドルアンテナ(約10cm)

FA-S07U*1: ロングアンテナ(約22cm)

マイクロホン/ヘッドセット関係

HM-104: 単一指向性タイピン型マイクロホン
※HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)
※EH-14、EH-15、SP-28のいずれか、およびOPC-636、OPC-637、OPC-2277のいずれかでお使いになれます。

HM-109: 接話タイピン型マイクロホン(樹脂取り付けクリップ)
※9-6ページと併せてご覧ください。

HM-163A: 接話タイピン型マイクロホン(防水コネクター/金属取り付けクリップ)
※9-6ページと併せてご覧ください。

HS-86: ヘルメット取り付け型ヘッドセット(生産終了品)
※9-7ページと併せてご覧ください。

HS-88A: ヘッドセット
※OPC-636、OPC-637、OPC-2277のいずれかでお使いになれます。

HS-92: ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
※9-7ページと併せてご覧ください。

HS-99: 耳かけ式イヤホンマイクロホン
※VS-2SJ(別売品)と併せてご用意ください。

OPC-636: マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック仕様)
※9-7ページと併せてご覧ください。

OPC-637: マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ノンロック仕様)
※9-7ページと併せてご覧ください。

OPC-2277*3: 通話スイッチ内蔵型接続ケーブル
※HS-86(生産終了品)、HS-88A、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。
※ご使用になるには、外部電源制御の設定(P.8-4)が必要です。

VS-2SJ*4: VOXユニット
※HS-99と併せてご用意ください。
※ご使用になるには、外部電源制御の設定(P.8-4)が必要です。

9 別売品とその使いかた

■ アルカリ電池ケース使用時の運用時間

名 称		BP-221	
使用時間	パワーセーブ	ON	OFF
	送信 1W	約6時間	約5時間
	出力 5W	約1時間	約50分
【条件】送信5、受信5、待ち受け90の割合で繰り返し運用			

※アルカリ電池ケースは、防塵/防水構造ではありません。
 ※出荷時、パワーセーブ機能(P.8-6)は、「OFF」に設定されています。

※使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。
 また、アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

■ 安全な充電のために

△危険

- ◎充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
- ◎指定(BP-220N/BP-274)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- ◎別紙の「ご注意と保守について」を併せてお読みになり、正しい方法で充電してください。

△警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

※バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ バッテリーパック使用時の使用時間と充電時間

名 称		BP-220N	
定格項目		リチウムイオン	
電池の種類		リチウムイオン	
電池の容量		2660mAh min. /2800mAh typ.	
出力電圧		7.4V	
寸 法 (幅×高さ×奥行)		56×91×21.9 【条件】突起物は含まず/【単位】mm	
パワーセーブ		ON	OFF
使用時間	送信出力	1W	約29時間
	5W	約20時間	約17時間
【条件】送信5、受信5、待ち受け90の割合で、繰り返し運用			
充電時間		約4時間 【条件】BC-161 #02、BC-121NA使用時	

名 称		BP-274	
定格項目		リチウムイオン	
電池の種類		リチウムイオン	
電池の容量		1800mAh min. /1900mAh typ.	
出力電圧		7.4V	
寸 法 (幅×高さ×奥行)		56×91×14 【条件】突起物は含まず/【単位】mm	
パワーセーブ		ON	OFF
使用時間	送信出力	1W	約18時間
	5W	約12時間	約10時間
【条件】送信5、受信5、待ち受け90の割合で、繰り返し運用			
充電時間		約2.5時間 【条件】BC-161 #02、BC-121NA使用時	

※出荷時、パワーセーブ機能(P.8-6)は、「OFF」に設定されています。

※無線機本体に装着することで、IP67の防塵/防水性能があります。

9 別売品とその使いかた


■ 正しい充電のために

バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。

◎お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは必ず充電してください。

◎バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。なお、満充電した直後に再充電しないでください。

◎満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。

長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、残量表示が  の状態になるまで使用し、無線機から取りはずした状態で保管してください。

◎極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。

充電器は、次の環境でご使用ください。

BC-161 #02(卓上急速充電器) : 0~40℃

BC-121NA(6連急速充電器) : 10~40℃

◎充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

■ バッテリーパックの特性と寿命について

◎バッテリーパックは、消耗品です。

充電できる回数は、300回~500回が目安です。

充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止してください。

◎発火や火災の原因になることがありますので、劣化したバッテリーパックは使用しないでください。

◎使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。

◎劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。

◎充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。

無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。

■ バッテリーパックの膨らみについて

下記のような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

◎ひんぱんに充電している

◎満充電直後でも再充電している

◎高温な場所で使用・保管している

◎本書で説明する充電方法と異なる

バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

■ 充電のしかた(BC-161 #02の場合)

ご購入後、はじめてご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。

※BC-161 #02には、BC-165(BC-161 #02の電源)を付属していません。

BC-165も併せて、ご購入ください。

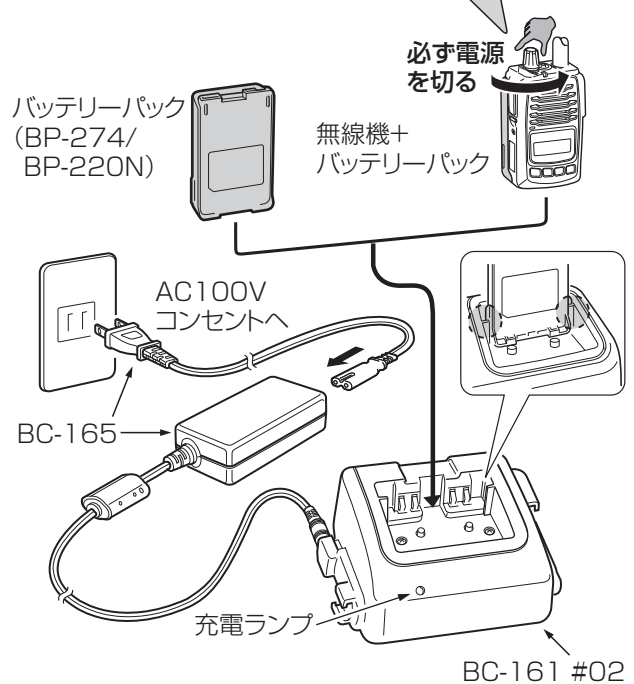
※BC-161 #02の電源には、必ずBC-165をご使用ください。

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。

※電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。



【充電中に充電器のランプが赤色点滅になるときは】

無線機の電源を入れた状態で充電しているときは、無線機の電源を切った状態で充電してください。

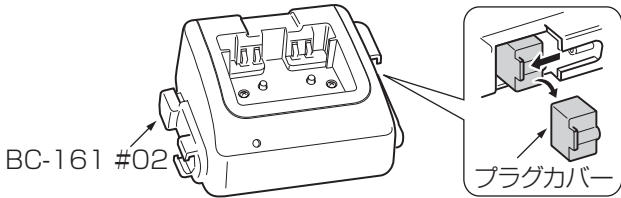
※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

9 別売品とその使いかた

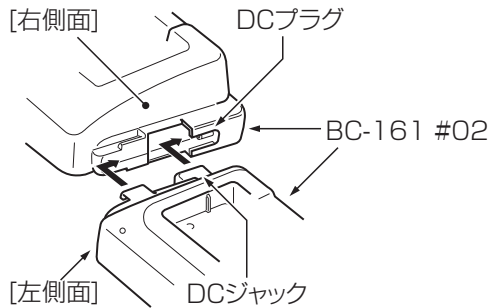
■ 連結充電について

充電器(BC-161 #02)を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

①BC-161 #02(右側面)に差し込まれているDCプラグカバーを図の方向に取りはずします。

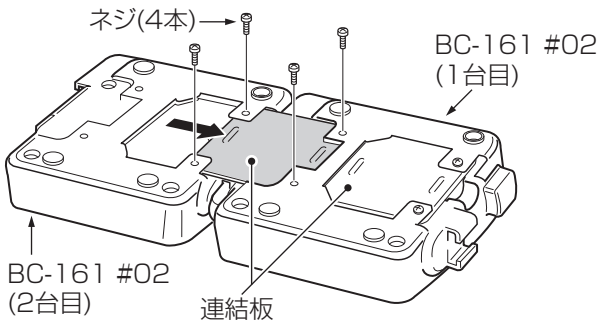


②右側面にあるDCプラグと、もう1台のBC-161 #02(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



③底面部(2台目のBC-161 #02)にある連結板を固定するネジ(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器のほうに移動させます。

取りはずしたネジ(2本)と充電器に付属のネジ(2本)で連結板を固定します。



※ACアダプター(別売品:BC-165)1つで、最大4台連結したBC-161 #02に接続できます。

△警告

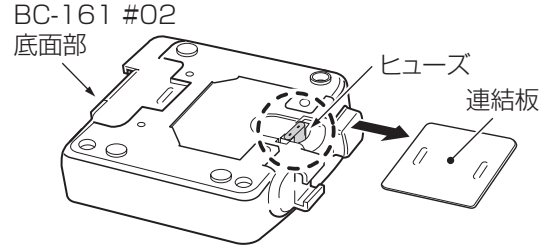
BC-161 #02を連結して充電できるのは、最大4台までです。

5台以上を連結して充電しないでください。

火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

■ BC-161 #02のヒューズ交換について

ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。



■ BC-161 #02の定格について

定格入力電圧:DC15V

※ACアダプター(別売品:BC-165)を使用時

使用温度範囲:0~40℃

重量:約225g

寸法:122.5(W)×59.7(H)×95(H)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

9 別売品とその使いかた

■ 充電のしかた(BC-121NAの場合)

ご購入後、はじめてご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。

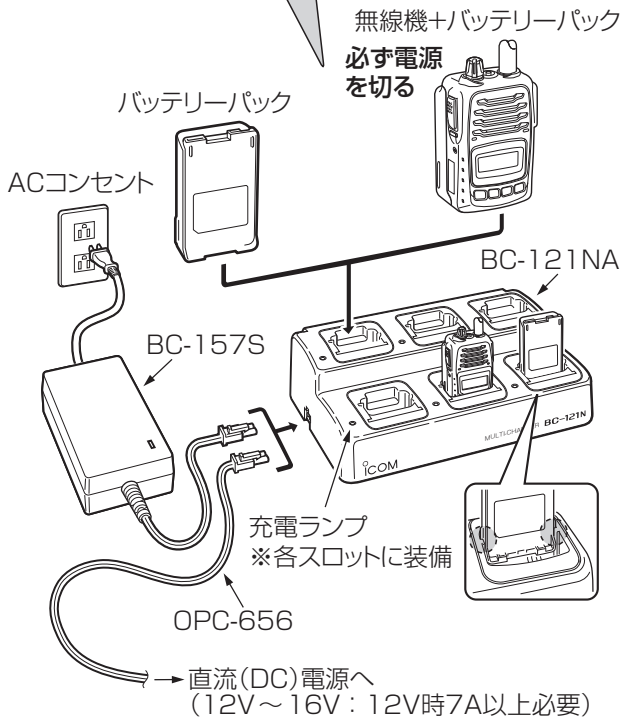
バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中は橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※定格など詳細については、BC-121NAに付属の取扱説明書と併せてご覧ください。

充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。

※電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。

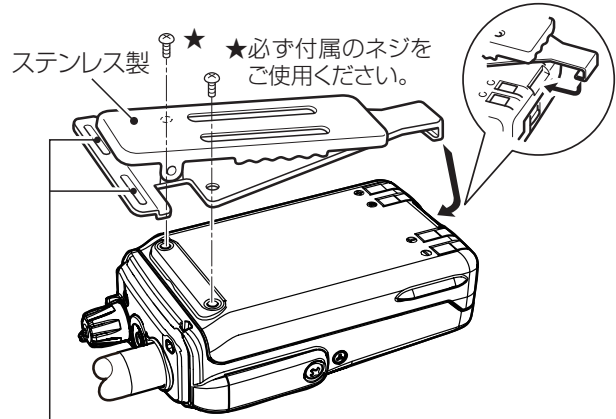


【充電中に充電器のランプが赤色点滅になるときは】

無線機の電源を入れた状態で充電しているときは、無線機の電源を切った状態で充電してください。

※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ MB-97(ベルトクリップ)



MB-80のストラップ部、またはMB-57Lのショルダーストラップを取り付けできます。

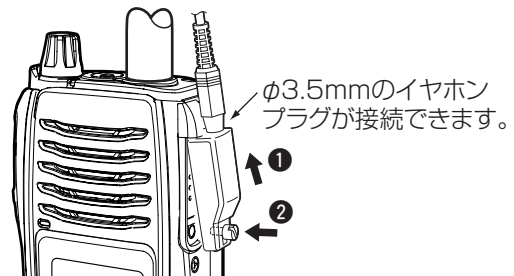
△注意

腰などに固定するときは、指を挟まないようご注意ください。

■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)

SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29のいずれかでお使いになれます。

※装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。



■ HM-109/HM-163A

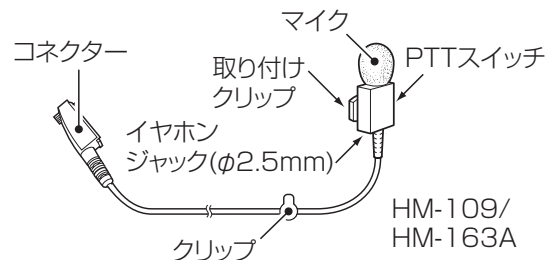
(接話タイピン型マイクロホン)

EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28のいずれかでお使いになれます。

※HM-109 : 単一指向性マイク(樹脂取り付けクリップ)

※HM-163A : 無指向性マイク

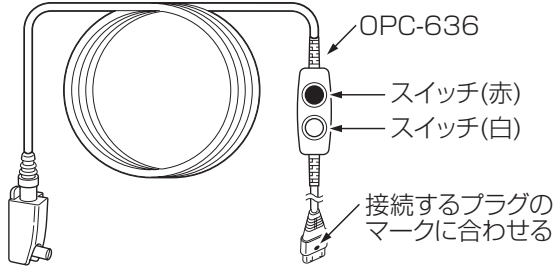
(防水コネクター/金属取り付けクリップ)



9 別売品とその使いかた

■ OPC-636/OPC-637 (マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)

HS-86(生産終了品)、HS-88A、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。



〈OPC-636の場合〉

赤色のスイッチは、ノンロック(未固定)式です。

※白色のスイッチが出ている(出)とき使用できます。

- : 押ししているあいだけ、送話する
- : はなすと、送話を中断する

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれていると無効です。

- : 押し込む(入)と、送話する
- : 出ている(出)と、送話を一時中断する

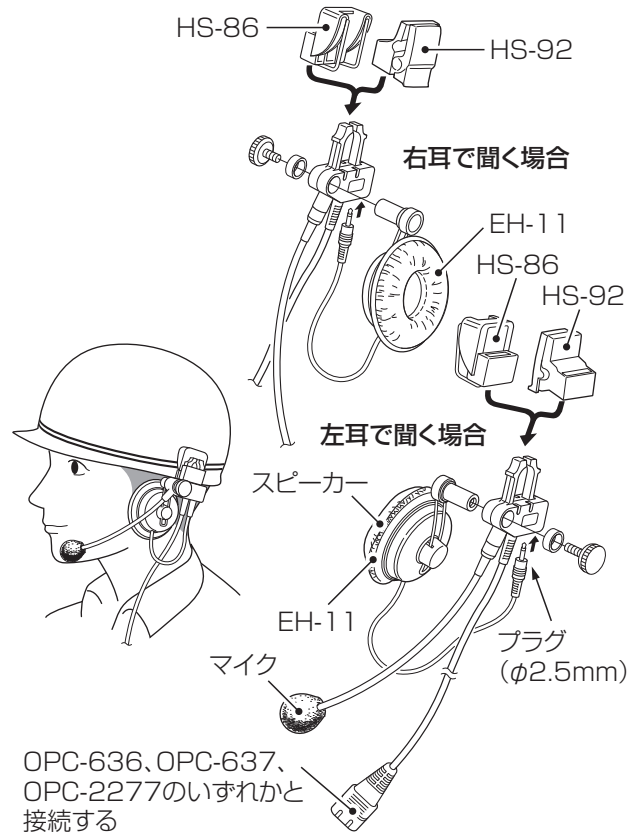
〈OPC-637の場合〉

黒色のスイッチは、ノンロック(未固定)式です。

- : 押ししているあいだけ、送話する
- : はなすと、送話を中断する

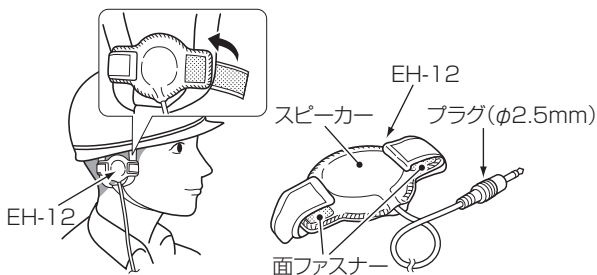
■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)とEH-11(イヤープッド型スピーカー)の組み立て

※HS-86は、生産終了しています。



■ EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)

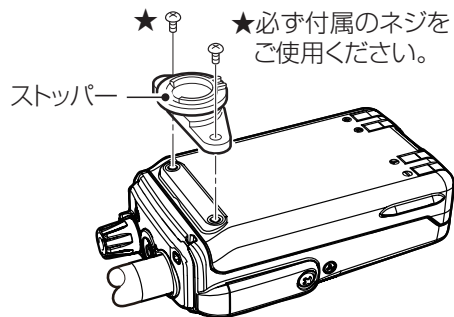
HS-86(生産終了品)、HS-92のいずれかでお使いになれます。



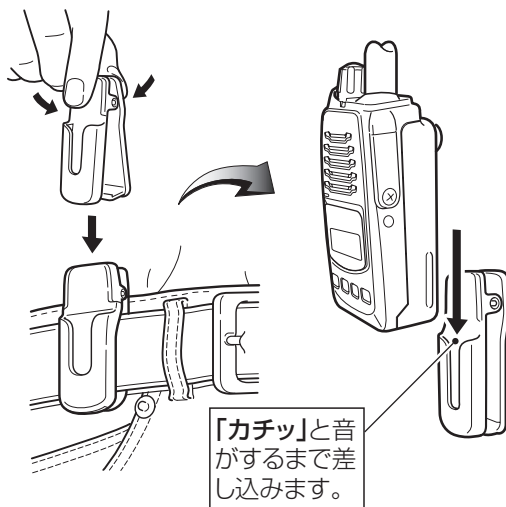
9 別売品とその使いかた

■ MB-86(回転式ベルトクリップ)

【組み立てかた】



【無線機の取り付けかた】

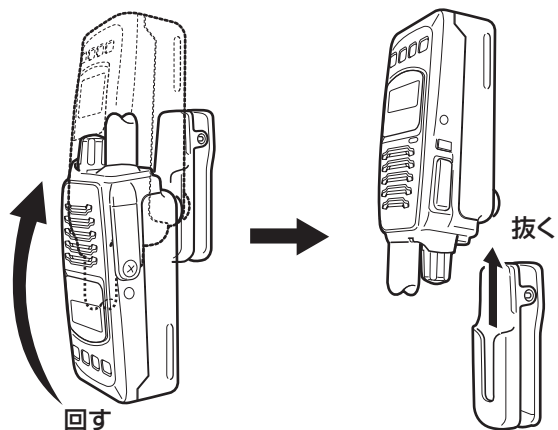


【無線機のはずしかた】

ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

【ストッパーの破損に注意】

落下など、強い衝撃が加わってストッパー部分を破損すると、ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。



10 保守について

■ 日常の保守と点検について

◎ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。

また、バッテリーパック(BP-220N/BP-274)やアルカリ電池ケース(BP-221)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎無線機本体、充電器(BC-161 #02、BC-121NA)、バッテリーパック、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。

各端子は、乾いた布などで定期的にふいてください。

◎使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示(P.2-3)を確認してください。

また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。

◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。

◎音量が最小に調整されていないか、確認してください。

■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守について

本製品は、IP67を保証(ご購入より3年間)している無線機です。

この防塵/防水性能を維持するためにも、保証期間経過後は定期点検(年1回)の実施をおすすめします。

また、防塵/防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。

※定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 従来製品との相互使用について

従来製品と相互に使用するときには、下記の弊社製無線機をお使いください。(2018年3月現在)

※詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

◎IC-D50* ◎IC-D5005* ◎IC-D6005

★緊急呼び出し機能は、使用できません。

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな?と思ったら」(P.10-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>

10 保守について

■ 故障かな？と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.10-1)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	バッテリーパック(ケース)の接触不良	バッテリーパック、またはアルカリ電池ケースの端子を清掃する アルカリ電池ケースをご使用の場合は、乾電池の極性を間違えていないかを確認する	—
	バッテリーパック、または乾電池の消耗	バッテリーパックは充電し、乾電池は新しいものに入れ替える	—
	バッテリーパックをご使用の場合、保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる	—
充電中に充電器のランプが赤色点滅になる	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する ※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。	—
充電が完了(充電器のランプが緑色に点灯)しない	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	—
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量を確認する	P.1-2
送信できない (ブップッ・・・が鳴る)	5分間の送信時間制限が過ぎたとき	1分以上待ってから、もう一度送信する	P.3-2
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	ランプ(緑色)が消灯してから送信する	P.3-2
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P.3-1
	ユーザーコードが合っていない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.4-1
	相手が秘話機能を使用していない、または自分の秘話IDと秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P.5-1
	個別番号、またはグループ番号を間違えている	個別番号、またはグループ番号を確認する	P.6-1、 P.6-2
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P.3-2
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の設定ができない	呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している	通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に変更する	P.3-1
キー操作ができない	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.7-1
受信音が聞こえない	秘話機能を使用していない	秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P.5-1
	ユーザーコードを設定している	相手のユーザーコードの設定を確認する	P.4-1

高品質がテーマです。



- 本 社 東京都品川区南品川 2-7-18 TEL 03-5715-2351
- 関 西 支 店 大阪市西区千代崎 1-24-11 TEL 06-6583-7700
- 札幌営業所 名古屋営業所
- 仙台営業所 九州営業所

<https://www.jenix.co.jp/> 営業所住所はこちら▶

